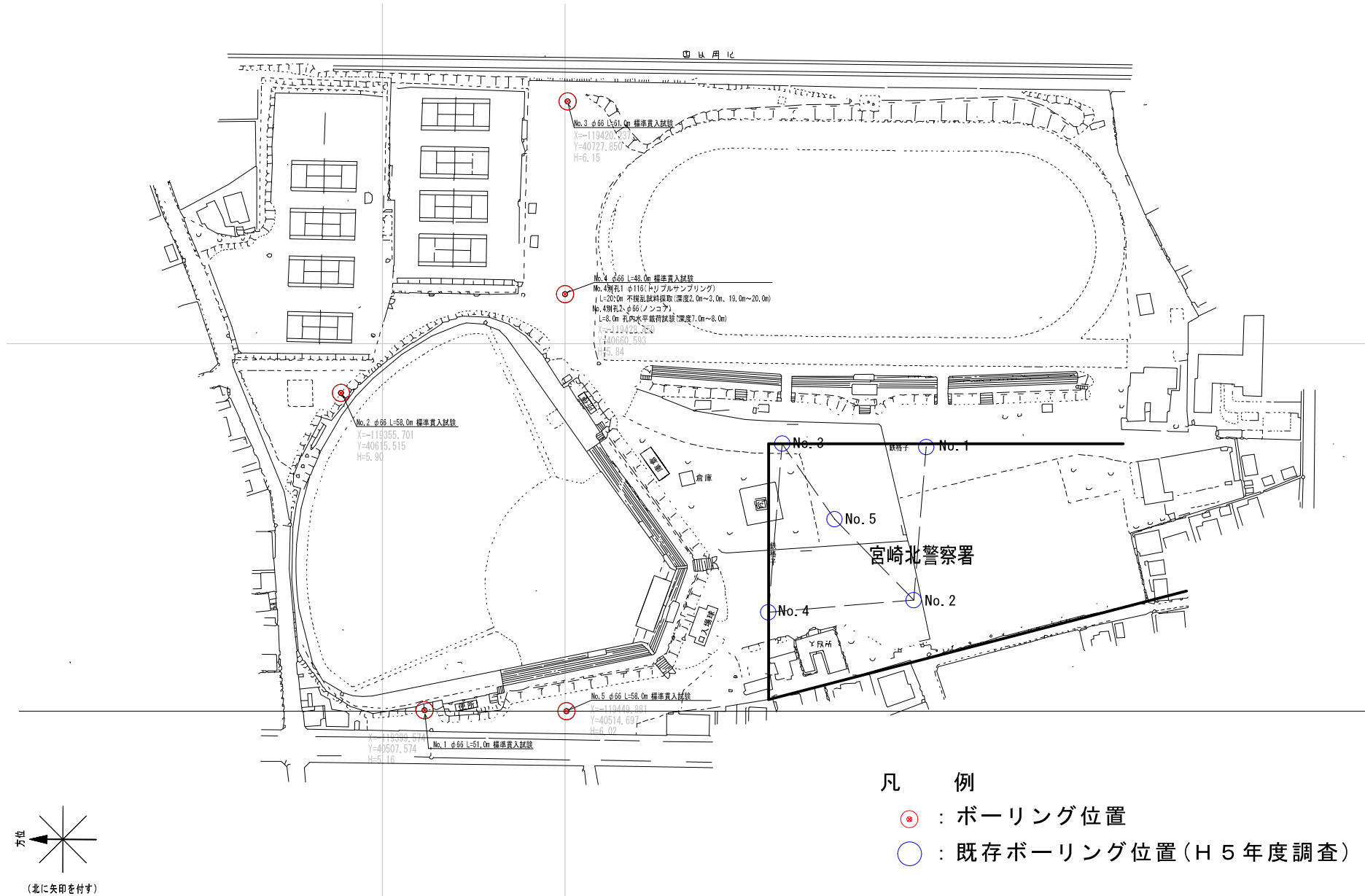
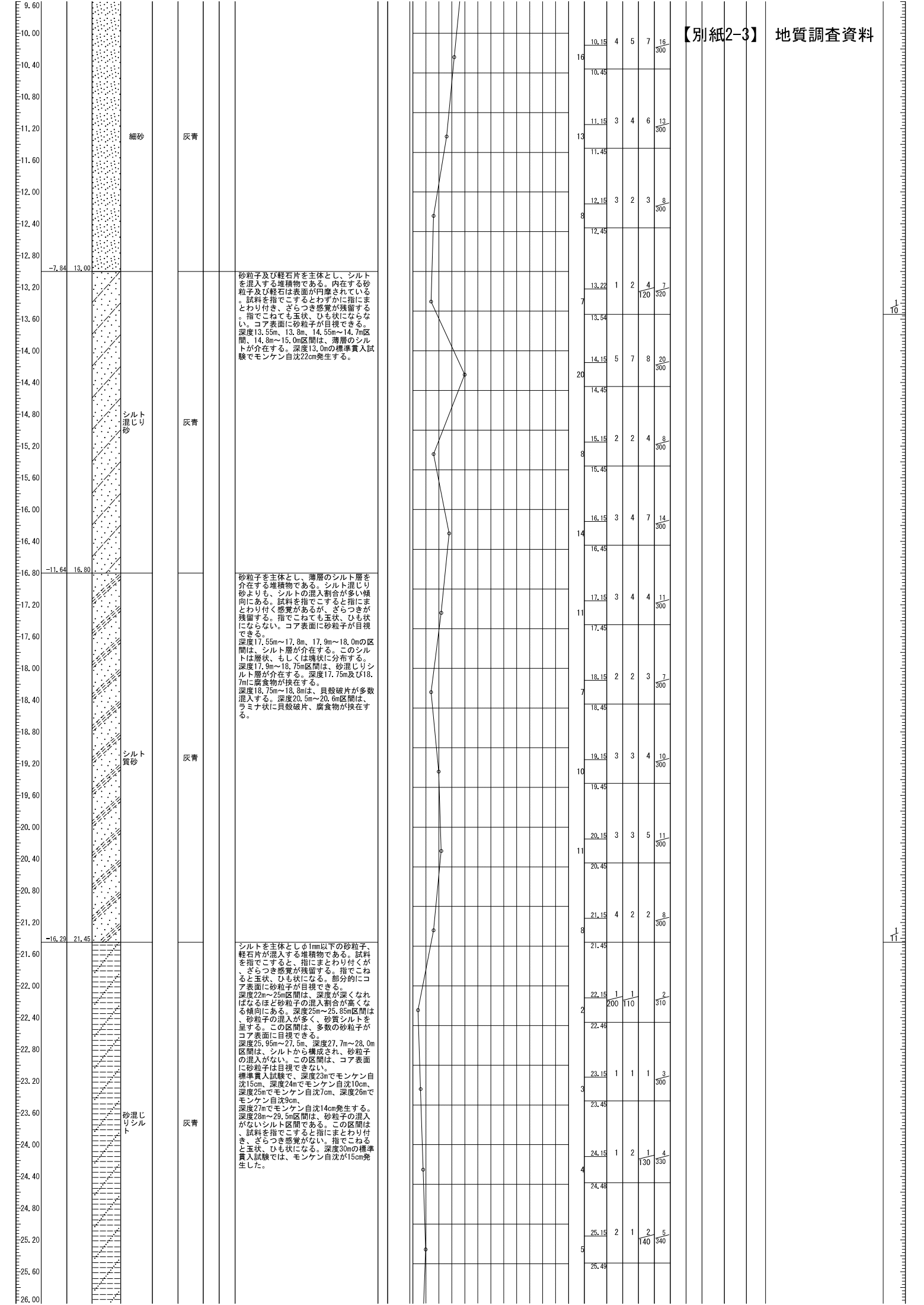
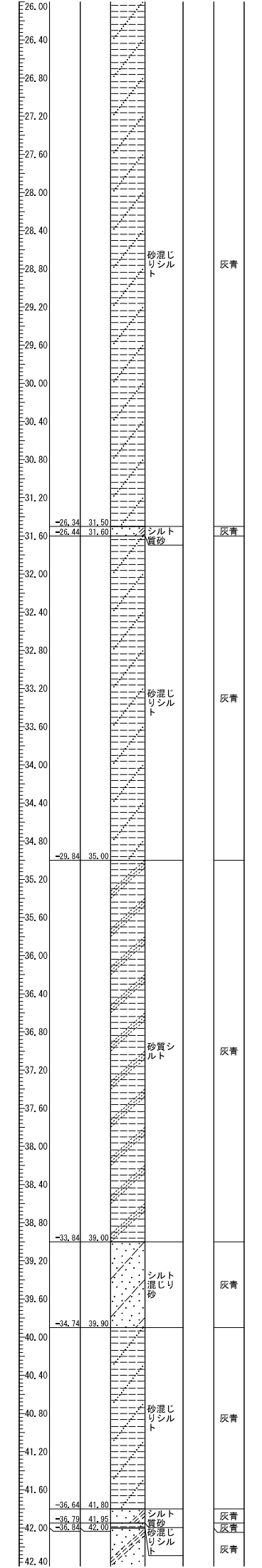


県プール整備運営事業（仮称） ボーリング位置図







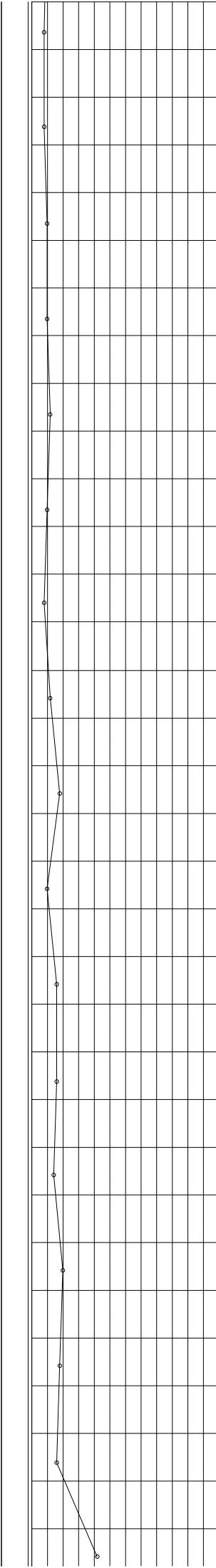
主として砂及びシルト成分から構成される堆積物である。内在する砂粒子は、表面が円磨されている。砂粒子・貝殻破片が混入し、砂粒子は目視できる。
 試料を指でこすると指にまとわり付き、ざらつき感覚が強い傾向にある。シルトを主体とし、砂がわずかに混入する堆積物である。試料を指でこすると指にまとわり付き、ざらつき感覚がわずかに残留する。
 深度31.5m~31.7m区間は、貝殻破片が混入する。深度32.7m及び32.9mには、腐食物が混入する。深度32mの標準貫入試験では、モンケン自沈が15cm発生した。

シルトを主体とし、砂粒子が比較的多く混入する堆積物である。試料を指でこするとざらつき感覚が強い。砂粒子が目視できる。
 深度38.5m及び38.75mに、φ1mm~2mm程度の軽石、石英破片が帯状に存在する。部分的に腐食物を挟在する。

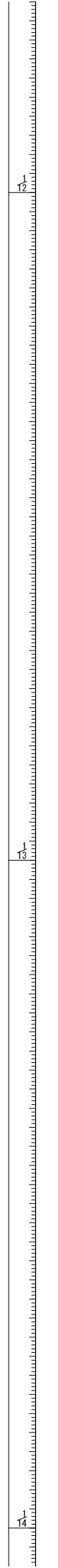
砂粒子を主体とし、シルトが多く混入する堆積物である。指でこするとざらつき感覚が強く残留する。粘土シルトの様に玉状、ひも状に固まらない。砂粒子が目視できる。部分的に腐食物を挟在する。深度39.0mから下部粘性土砂質土互層となる。

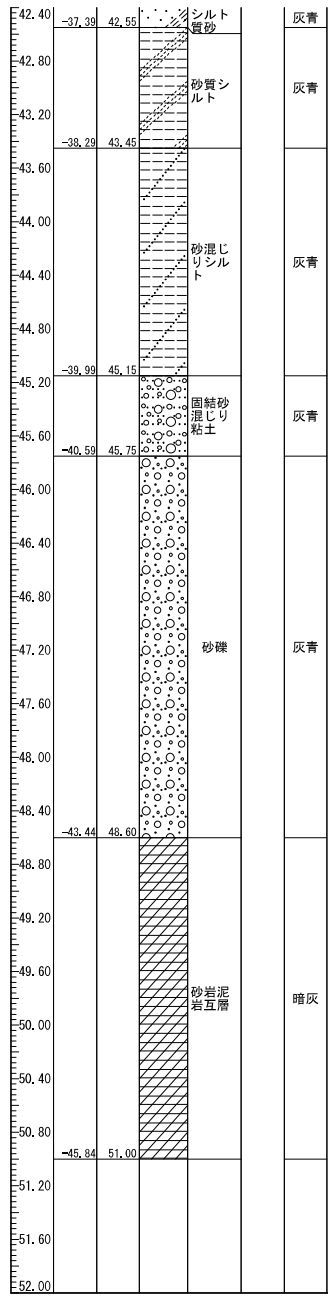
シルトを主体とし、砂粒子がわずかに混入する堆積物である。試料を指でこするとざらつき感覚が残留する。砂粒子が目視できない。

砂粒子を主体とし、シルトが混入する堆積物である。コア表面に砂粒子が目視できる。試料を指でこするとざらつき感覚が強く残留する。深度41.9m~41.95m区間は、腐食物が挟在する。



26.15	1	1	2	4
26.49				
27.15	1	2	1	4
27.47				
28.15	2	1	2	5
28.50				
29.15	1	2	2	5
29.50				
30.15	2	2	2	6
30.50				
31.15	1	2	2	5
31.50				
32.15	1	2	1	4
32.42				
33.15	2	2	2	6
33.45				
34.15	3	3	3	9
34.45				
35.15	2	1	2	5
35.45				
36.15	3	2	3	8
36.45				
37.15	3	3	2	8
37.42				
38.15	3	2	2	7
38.42				
39.15	2	3	5	10
39.45				
40.15	3	3	3	9
40.45				
41.15	2	3	3	8
41.48				
42.15	4	7	10	21





シルトを主体とし、砂粒子がわずかに混入する堆積物である。試料を指でこすると指にまとわり付くが、ざらつき感覚がわずかに残留する。主に砂粒子から構成され、シルト成分が混入する堆積物である。砂粒子が自視できる。試料を指でこすると指にまとわり付き、ざらつき感覚が弱く残留する。

シルト成分を主体とし、砂が混入する堆積物である。試料をこすると指にまとわり付き、ざらつき感覚が残留する。砂粒子は自視できない。

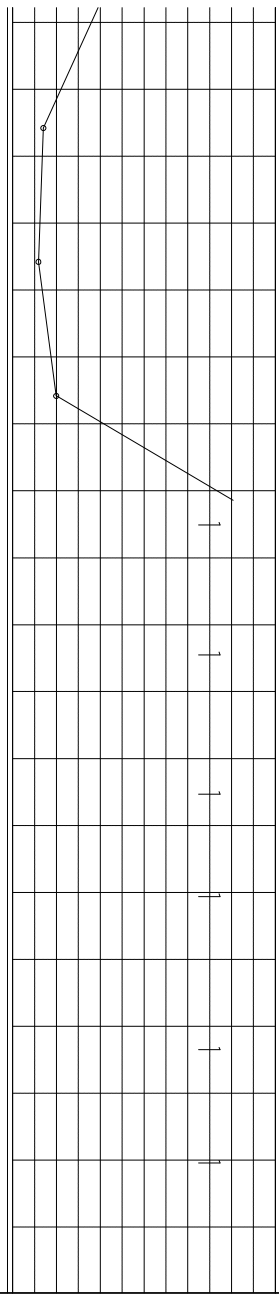
シルトを主体とし、砂がわずかに混入する堆積物である。試料を指でこすると指にまとわり付き、ざらつき感覚が弱く残留する。コア表面に砂粒子は自視できない。

腐食物から構成され、腐食が進行し、粘土化している区間である。メタンガスの根源の地層である。

φ1cm~10cm大の砂岩・泥岩の円摩された多種多様の礫片と砂状の基質から構成される。内在する砂状の基質は、火山ガラスが混入する。岩片の風化程度は低く、岩片の風化リムは存在しない。

深度48.45m~48.6m区間は、風化した泥岩の岩片が混入する。この泥岩の岩片は破砕が進行している。下位の砂岩泥岩互層との境界部には、原岩色の粘土帯が挟在する。破砕形状及び風化性状を見ると、水平方向に剪断応力が作用した破砕特性を示す。

富崎層群の砂岩泥岩互層が分布する。深度48.6m~48.65m区間は、風化により褐色化した泥岩区間が分布する。泥岩区間は、極めてスレーキングし易い岩質にある。

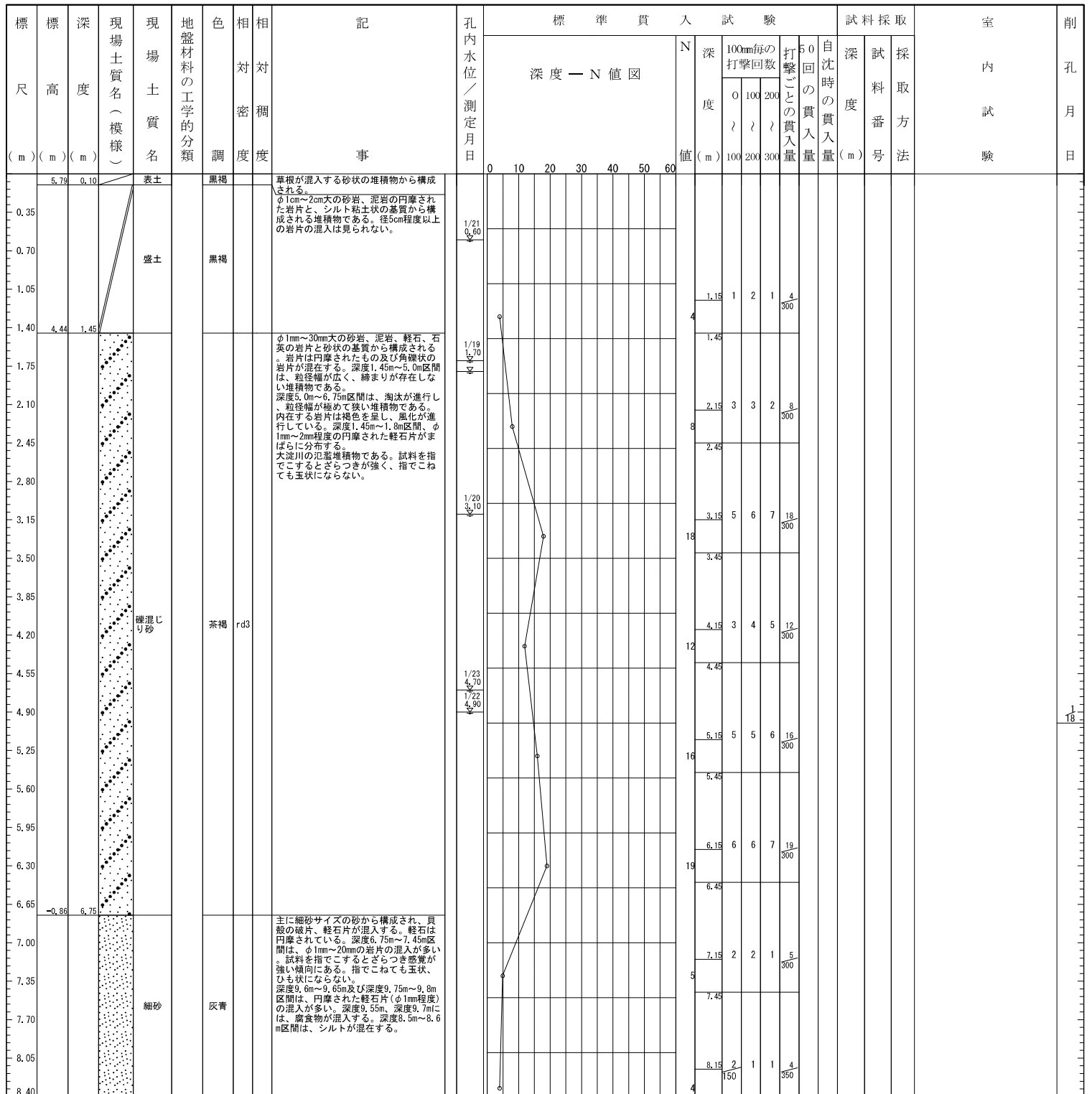


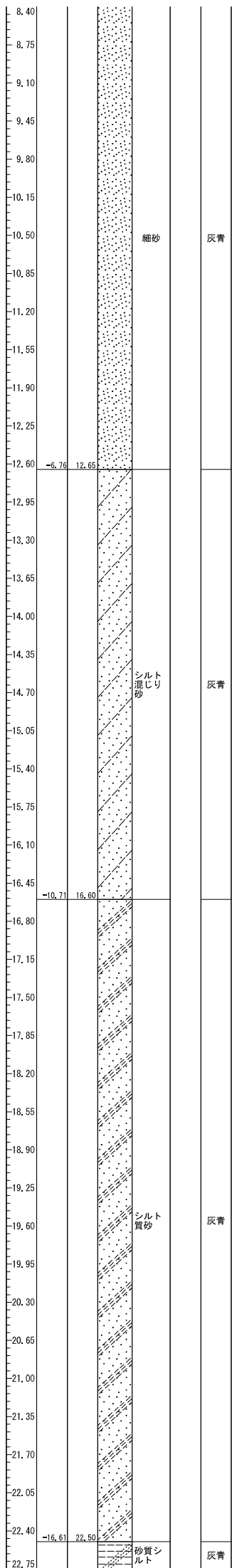
42.45						
43.15	3	2	2	7	300	
43.45						
44.15	2	2	2	6	300	
44.45						
45.15	3	3	4	10	300	
45.45						
46.15	22	25	13	60	230	230
46.38						
47.15	33	27	70	60	170	170
47.32						
48.15	24	28	8	60	250	250
48.40						
49.00	60			60	80	80
49.08						
50.15	60			60	70	70
50.22						
51.00	60			60	60	60
51.08						

15
16
17
18
19
20

土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

ボーリング位置：No. 2
 発注機関：宮崎県 県土整備部 営繕課
 調査期間：令和2年1月17日～2月1日
 孔口標高：TP5.89m
 総掘進長：58.00m

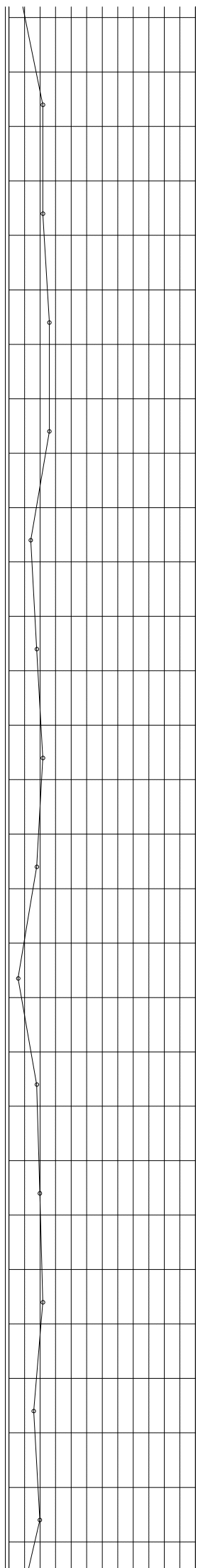




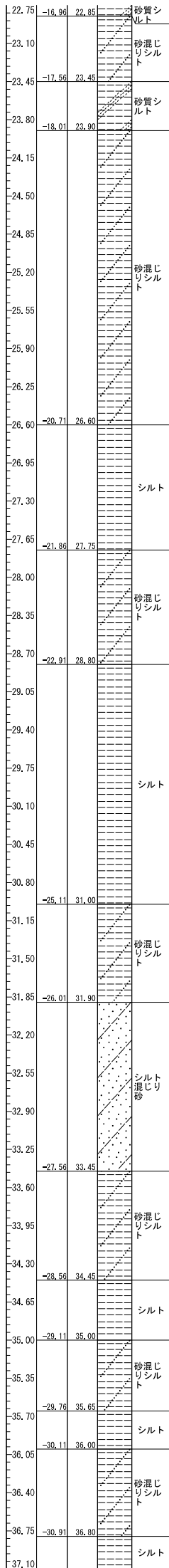
砂を主体とし、シルトが薄層状に挟在する区間である。試料を指でこするとまとわり付くが、ざらつき感覚が残留する。深度12.65m~12.75m区間、13.75m~13.95m区間、深度は、シルトの薄層~塊状に挟在する。深度13.5m~13.6m区間、貝殻の破片、円摩された軽石片が多く混入する。深度13.7m、13.95m、深度14.7m~14.8m区間は、区間にφ0.5cm程度の岩片が混入する。深度16.0mに腐食物が挟在する。

砂を主体とするが、シルトの薄層~塊状の試料が頻りに挟在する。試料を指でこすると、まとわり付くが、ざらつき感覚が残留する。試料をこねても粘性土の様に、玉状、ひも状にはならない。シルト層区間は、葉理構造が認められる。深度16.6m~16.75m、17.75m~17.85m、17.95m~18.0m、18.45m~18.5m、18.7m~18.95m、19.45m~19.65m、19.8m~19.9m、20.5m、20.8m、21.65m、21.85m区間は、シルトの薄層を挟む。深度16.85m、16.9m、17.75m、18.7m、18.8mは、腐食物を挟む。深度17.5m~17.8m区間は、φ1mm以下の円摩された軽石が多く混集する。

シルトを主体とし、細砂が混入する堆積物である。試料を指でこすると、指



8.50				
9.15	2	4	5	11/300
9.45				
10.15	3	4	4	11/300
10.45				
11.15	3	5	5	13/300
11.45				
12.15	2	5	6	13/300
12.45				
13.15	2	2	3	7/300
13.45				
14.15	3	2	4	9/300
14.45				
15.15	3	3	5	11/300
15.45				
16.15	3	2	4	9/300
16.45				
17.15	1	1	1	3/350
17.50				
18.15	2	3	4	9/300
18.45				
19.15	3	3	4	10/300
19.45				
20.15	2	4	5	11/300
20.45				
21.15	1	2	5	8/300
21.45				
22.15	4	4	2	10/300
22.45				



にまとわり付き感覚があり、ざらつき感覚が残留する。葉理構造が認められる。貝殻破片、 $\phi 1\text{mm}$ 以下の砂粒子が混入する。

シルトを主体とし、細砂がわずかに混入する堆積物である。試料を指でこすると指にまとわり付き、ざらつき感覚がわずかに残留する。深度22.85mに腐植土が混入する。腐植土がラミナに沿って分布する。

シルトを主体とし、細砂が混入する堆積物である。試料を指でこすると、指にまとわり付き感覚があり、ざらつきは残留する。ラミナ構造が認められ、ラミナ構造に沿って、腐食物が挟在する。深度23.85m~23.9m区間は、細砂層を挟在する。

主にシルトから構成され、砂粒子がわずかに混入する。試料を指でこすると指にまとわり付き感覚があり、ざらつきはわずかに残留する。深度24.0mの貫入試験実施の際、モンケン自沈が33cm程度発生する。深度25.0mの貫入試験区間は、モンケン自沈16cm発生する。

シルトから構成される堆積物である。試料を指でこすると指にまとわり付き、ざらつき感覚は残留しない。指でこねると玉状になる。砂粒子は目視できない。深度26.7m~27.0m区間、葉理構造(ラミナ)が存在し、ラミナに沿って腐食物が混入する。

シルトを主体とし、砂がわずかに混入する堆積物である。指でこすると指にまとわり付き、ざらつき感覚はわずかに残留する。砂粒子は目視できない。ラミナ構造を有し、腐食物がラミナに沿って挟在する。品位ほど、砂の混入割合が大きくなる傾向にある。

シルトから構成される堆積物である。試料を指でこすると指にまとわり付き、ざらつき感覚が残留しない。試料を指でこねると、玉状になる。コア表面に砂粒子が目視できない。この区間のコア内で腐食物の小片が挟在する。深度30.0mに腐食物の破片が混入する。

シルトを主体とし、砂が混入する堆積物である。試料を指でこすると指にまとわり付き、ざらつき感覚が残留する。区間内の下位の層ほど、砂の混入量が多い。コア表面に砂粒子が目視できない。

細砂を主体とし、シルトが混入する堆積物である。試料を指でこするとまとわり付きが弱く、直にざらつき感覚が強く残留する。指でこねても玉状~ひも状にならない。コア表面に砂粒子が目視できる。部分的に貝殻の破片が混入する。

シルトを主体とし、砂粒子が混入する堆積物である。試料を指でこすると指にまとわり付き、ざらつき感覚が残留する。コア表面に砂粒子が目視できない。葉理構造が認められる。腐食物は、葉理構造と平行に挟在する。

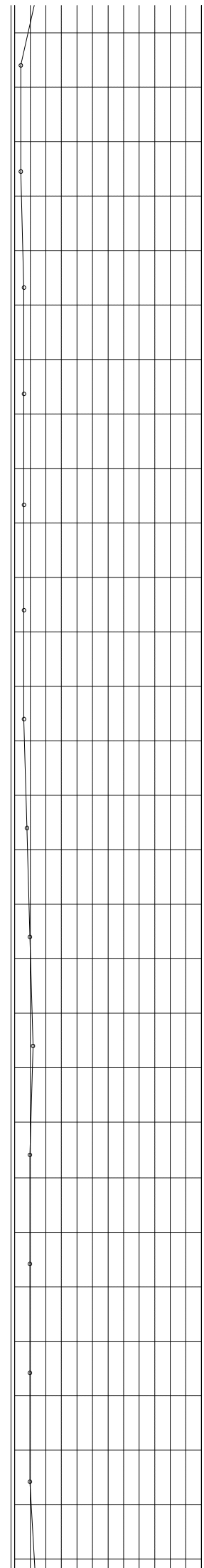
シルトから構成される堆積物である。試料を指でこねると指にまとわり付き、ざらつき感覚が残留しない。コア表面に砂粒子は目視できない。

シルトを主体とし、砂が混入する堆積物である。試料を指でこすると指にまとわり付き、ざらつき感覚が弱く残留する。指でこねると玉状になる。

シルトから構成される堆積物である。試料を指でこねると指にまとわり付き、ざらつき感覚が残留しない。指でこねると玉状になる。

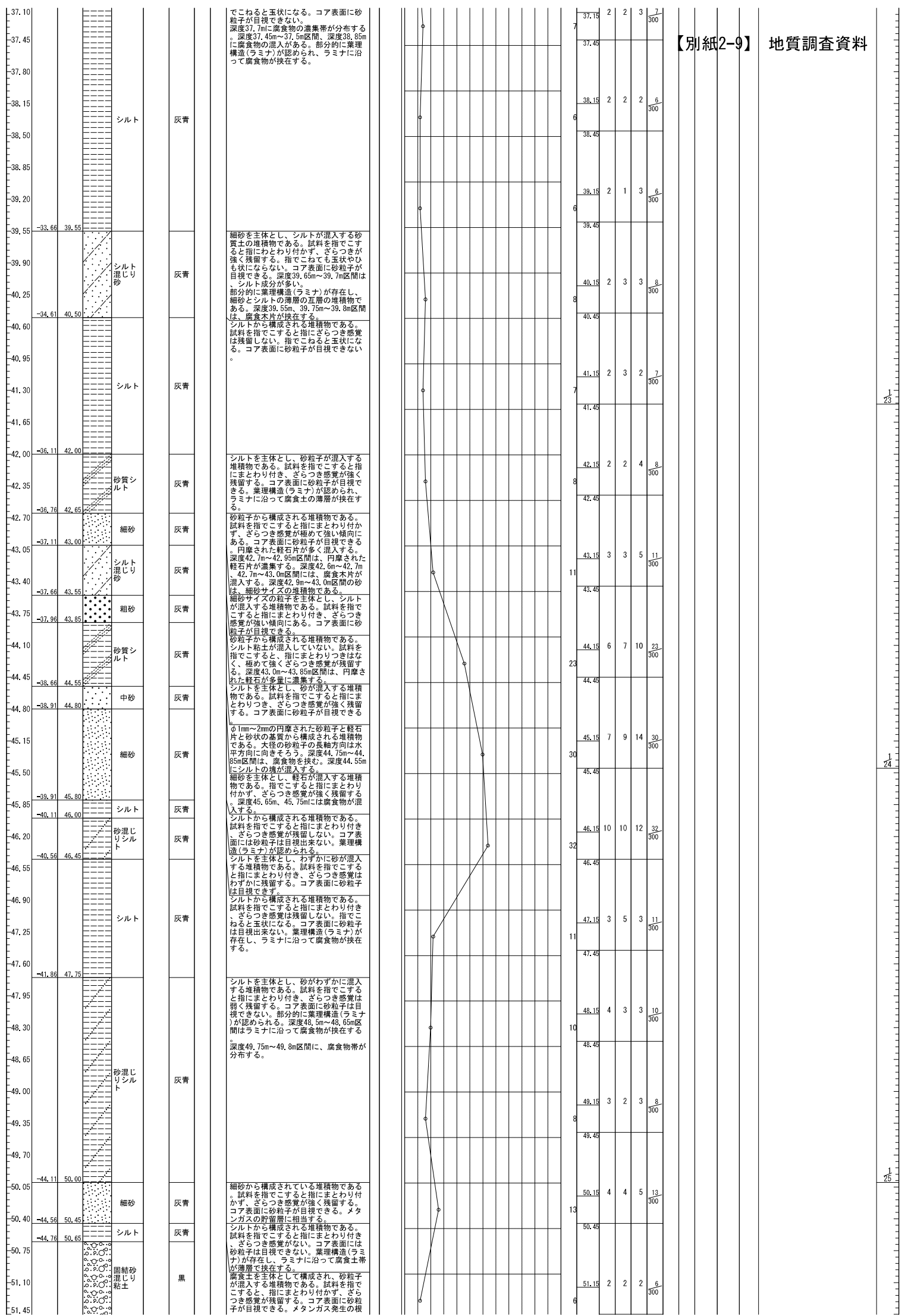
シルトを主体とし、細砂が混入する堆積物である。指でこすると指にざらつき感覚が弱く残留する。指でこねると玉状になる。深度36.65m~36.75m区間は、 $\phi 2\text{mm} \sim 3\text{mm}$ 大の円盤された軽石片が濃集する。この区間は、コア表面に砂粒子が目視できる。

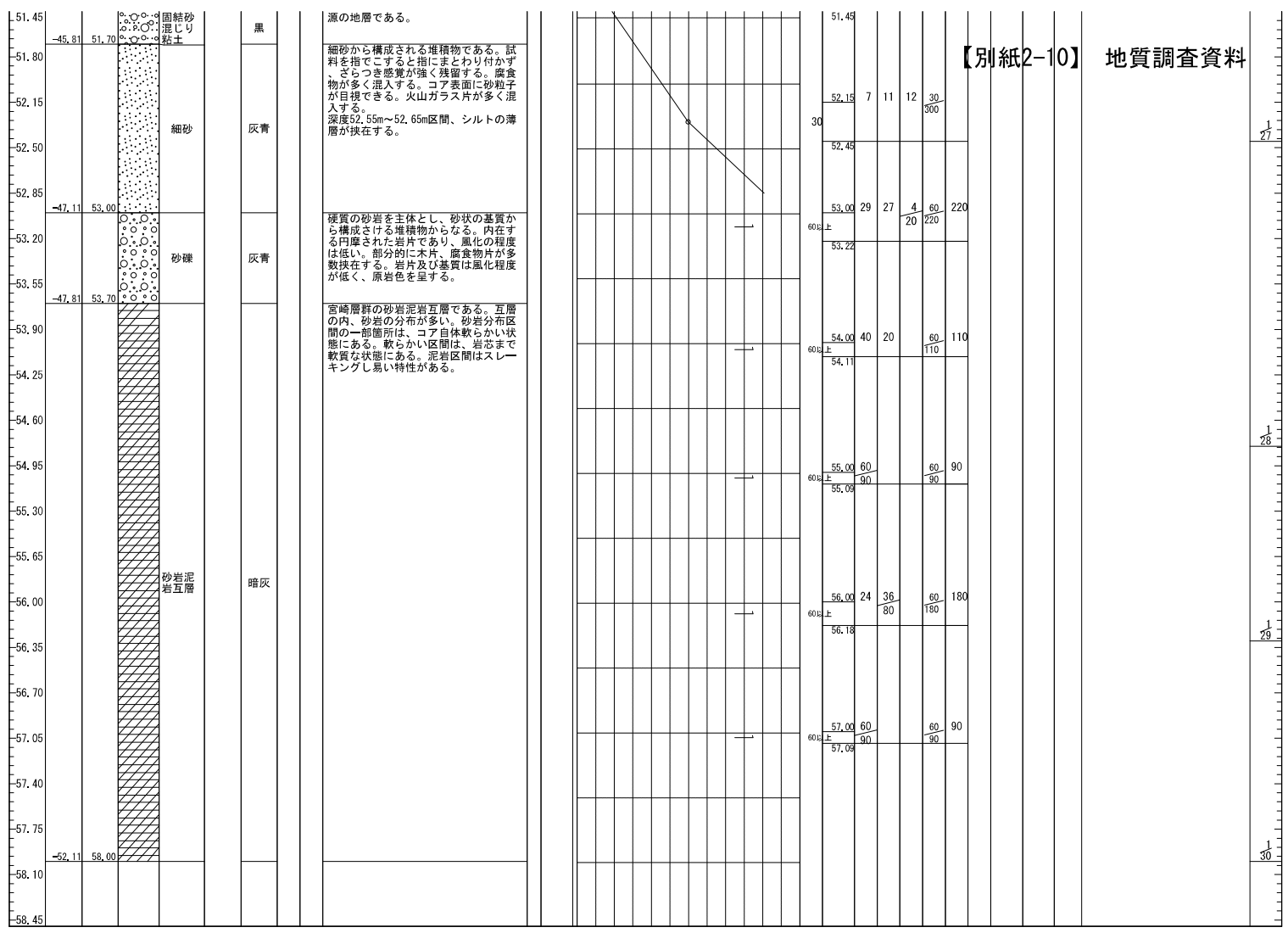
シルトから構成される堆積物である。試料を指でこねると指にまとわり付き、指にざらつき感覚が残留しない。指



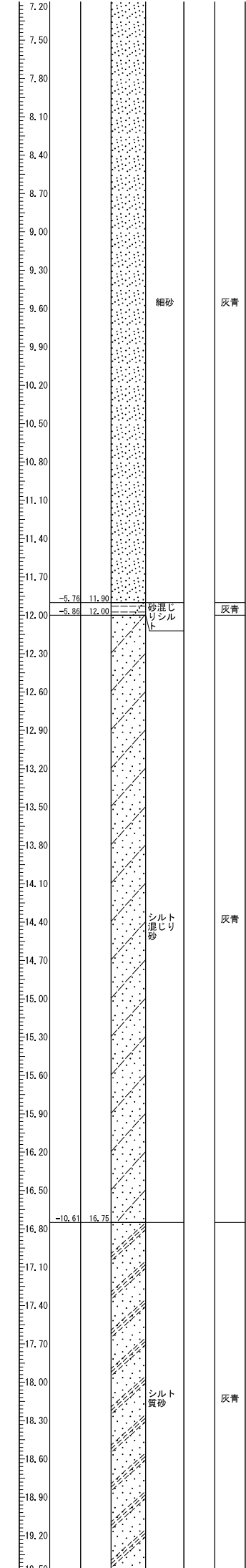
Depth (m)	W1 (mm)	W2 (mm)	W3 (mm)	W4 (mm)
23.15	1	1	2	300
23.45				
24.00	0	1	1	2
24.50	330	120	1	550
24.55				
25.15	1	1	1	3
25.52				
26.15	1	1	1	3
26.43				
27.15	1	1	1	3
27.52				
28.15	1	1	1	3
28.45				
29.15	1	1	1	3
29.45				
30.15	1	1	2	4
30.45				
31.15	1	2	2	5
31.45				
32.15	1	2	3	6
32.45				
33.15	1	2	2	5
33.45				
34.15	1	2	2	5
34.45				
35.15	1	2	2	5
35.45				
36.15	1	2	2	5
36.45				

【別紙2-8】 地質調査資料





1
27
28
29
30

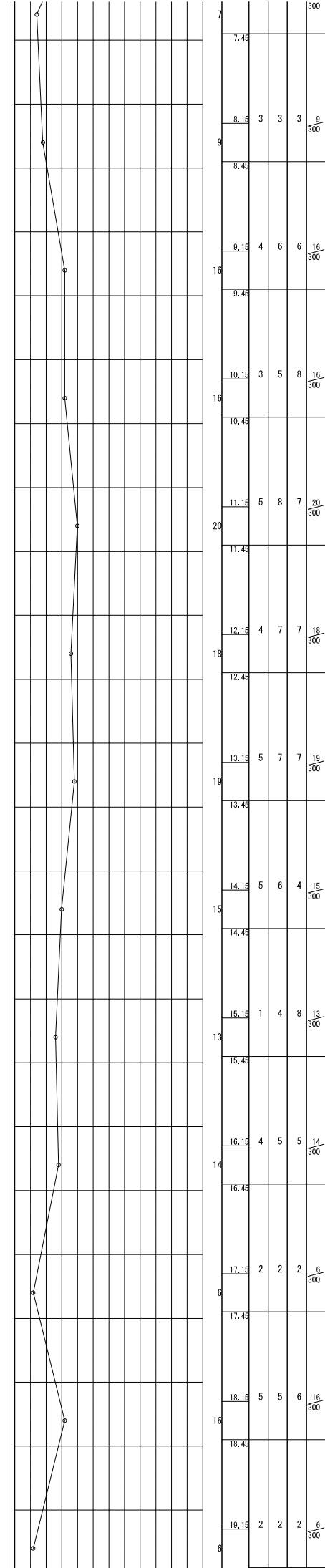


分的にφ2mm~φ3mm程度の礫片が濃集する区間が帯状に存在する。

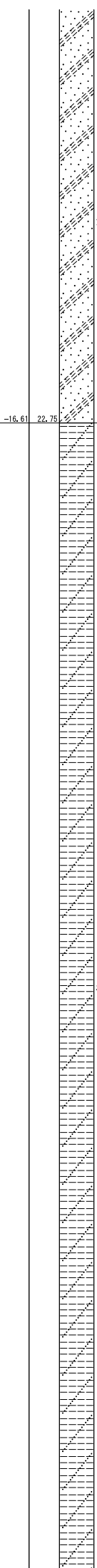
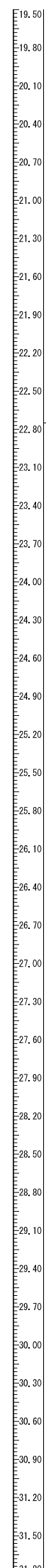
シルト主体とし、砂をわずかに混入する堆積物である。試料を指でこねると、指に吸い付く感覚があり、しばらくしてざらつきが残らない。
φ1mm~φ2mm程度以下の岩片と砂状の基質から構成される。試料を指でこねると、指に吸い付く感覚があり、しばらくするとざらつきが残る。シルトが混入する砂の堆積物である。

シルト混じり砂と厚さ1cm~3cmのシルト層の互層から構成される。シルト混じり砂の区間は、φ1mm以下の砂粒子と細砂~シルトの基質から構成される。試料を指でこねるとシルトがまとわりつき、しばらくするとざらつき感覚が残る。

新井世・灌成層



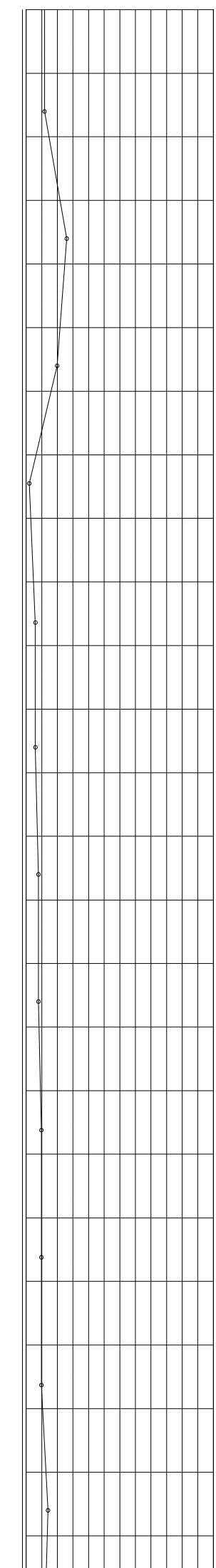
7	7.45				300
9	8.15	3	3	3	$\frac{9}{300}$
16	9.15	4	6	6	$\frac{16}{300}$
16	10.15	3	5	8	$\frac{16}{300}$
20	11.15	5	8	7	$\frac{20}{300}$
18	12.15	4	7	7	$\frac{18}{300}$
19	13.15	5	7	7	$\frac{19}{300}$
15	14.15	5	6	4	$\frac{15}{300}$
13	15.15	1	4	8	$\frac{13}{300}$
14	16.15	4	5	5	$\frac{14}{300}$
6	17.15	2	2	2	$\frac{6}{300}$
16	18.15	5	5	6	$\frac{16}{300}$
6	19.15	2	2	2	$\frac{6}{300}$



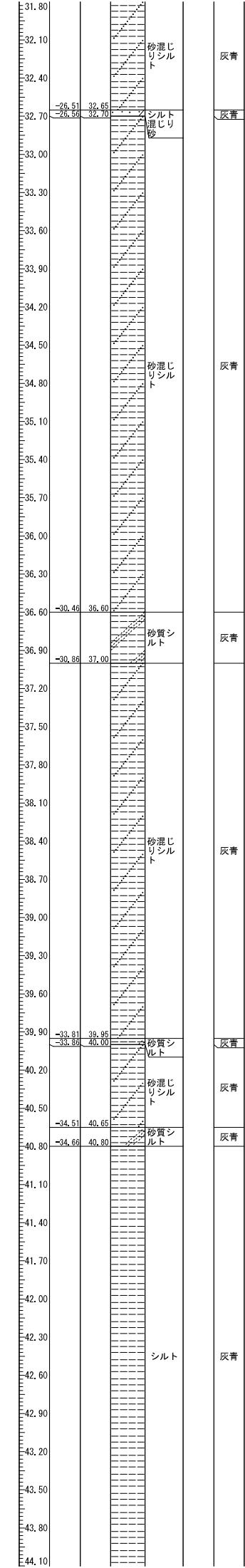
灰青
灰青

シルトを主体とし、砂を含む堆積物である。指でこねると指にまとわり付く感覚があり、しばらく後にざらつきが残る。こねるとひも状に変化する。ざらつき感覚が少ない。φ1mm程度以下の砂粒子及び貝殻破片がまばらに混入する。

至新世・漸新期



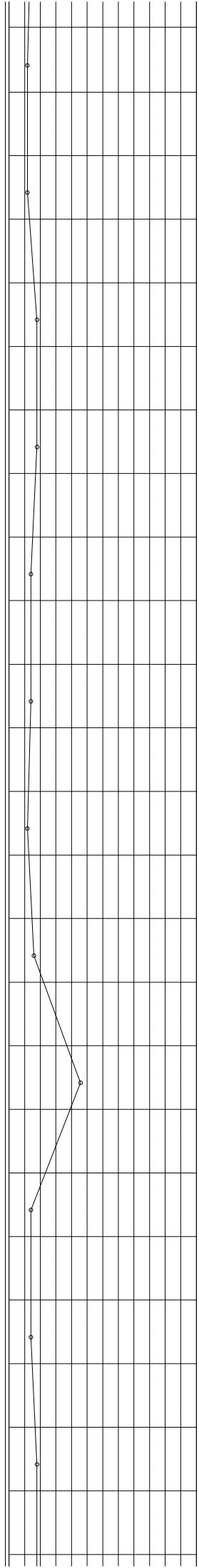
19.45				
20.15	2	2	2	$\frac{6}{300}$
20.45				
21.15	3	4	6	$\frac{13}{300}$
21.45				
22.15	3	5	2	$\frac{10}{300}$
22.45				
23.00	0	1	1	$\frac{1}{450}$
23.45				
24.15	1	1	1	$\frac{3}{140 \cdot 340}$
24.45				
25.15	1	1	1	$\frac{3}{300}$
25.45				
26.15	1	2	1	$\frac{4}{300}$
26.45				
27.15	1	2	1	$\frac{4}{300}$
27.45				
28.15	2	1	2	$\frac{5}{120 \cdot 320}$
28.45				
29.15	2	1	2	$\frac{5}{120 \cdot 320}$
29.45				
30.15	2	1	2	$\frac{5}{130 \cdot 330}$
30.45				
31.15	2	2	3	$\frac{7}{300}$
31.45				



砂を主体とし、シルトを混入する堆積物である。試料を指でこするとざらつきが強い傾向にある。
 シルトを主体とし、砂がわずかに混入する堆積物である。試料を指でこすると指にまとわり付き、しばらくするとざらつく。ざらつきは弱い傾向にある。

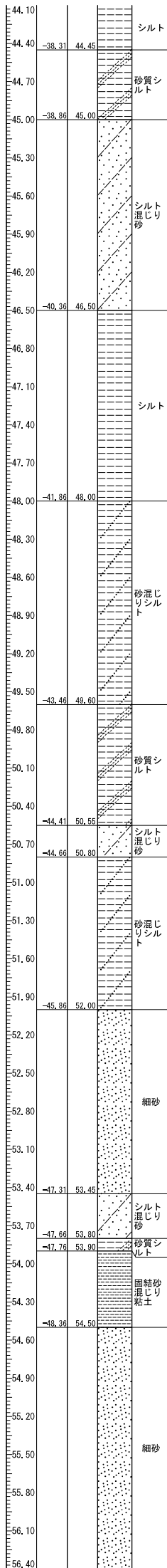
シルトを主体とし、砂が混入する堆積物である。試料を指でこすると、ざらつきが強い傾向にある。φ1mm程度の砂粒子が目視できる。軽石、木片が多く混入する。
 シルトを主体とし、砂が混入する堆積物である。φ1mm程度の目視できる砂粒子が点在する。試料を指でこすると指にまとわり付き、しばらく後にざらつきが残る。ざらつきは弱い。

シルトを主体とし、φ1mm程度の石英質の砂粒子が混入し、砂粒子は目視できる。試料を指でこするとざらつきが強い傾向にある。
 シルトを主体とし、砂が混入する堆積物である。試料を指でこするとざらつきは弱い傾向にある。
 シルトを主体とし、砂粒子が多く混入する堆積物である。試料を指でこするとざらつきが強い傾向にある。
 シルトから構成される堆積物であり、試料を指でこねるとひも状になり、こするとざらつき感覚がない。



32.15	2	2	2	$\frac{6}{300}$
32.45				
33.15	2	2	2	$\frac{6}{300}$
33.45				
34.15	3	3	3	$\frac{9}{300}$
34.45				
35.15	3	3	3	$\frac{9}{300}$
35.45				
36.15	2	3	2	$\frac{7}{300}$
36.45				
37.15	3	2	2	$\frac{7}{300}$
37.45				
38.15	2	2	2	$\frac{6}{300}$
38.45				
39.15	3	2	3	$\frac{8}{300}$
39.45				
40.15	7	8	8	$\frac{23}{300}$
40.45				
41.15	3	2	2	$\frac{7}{300}$
41.45				
42.15	2	3	2	$\frac{7}{300}$
42.45				
43.15	3	3	3	$\frac{9}{300}$
43.45				

地質世・地質層



44.10 - 44.45	シルト	灰青
44.45 - 44.70	砂質シルト	灰青
44.70 - 45.00	シルト	灰青
45.00 - 45.50	シルト混じり砂	灰青
45.50 - 46.50	シルト	灰青
46.50 - 48.00	シルト	灰青
48.00 - 49.60	砂混じりシルト	灰青
49.60 - 50.55	砂質シルト	淡青
50.55 - 50.80	シルト混じり砂	灰青
50.80 - 51.90	シルト	灰青
51.90 - 52.20	細砂	灰青
52.20 - 53.45	シルト混じり砂	灰青
53.45 - 53.80	砂質シルト	灰青
53.80 - 54.00	固結砂混じり粘土	黒
54.00 - 54.50	固結砂混じり粘土	黒
54.50 - 55.50	細砂	灰青

シルトを主体とし、砂粒子が混入する堆積物である。砂粒は目視できる。試料を指でこすると、ざらつき感覚が強い傾向にある。

砂を主体とし、シルトが混入する堆積物である。試料を指でこするとざらつき感覚が強い傾向にある。

シルトから構成される堆積物である。試料を指でこねると、指でこするとざらつきは残らない。

シルトを主体とし、砂が混入する堆積物である。試料を指でこするとざらつき感覚が残る。ざらつきは弱い傾向にある。

シルトを主体とするが、砂の混入が多い傾向にある。試料を指でこするとざらつき感覚が残る。ざらつき感覚弱い傾向にある。

砂を主体とし、シルトがわずかに混入する堆積物。試料を指でこねると、指にわずかにまとわり付き、ざらつき感覚が残る。

シルトを主体とし、砂が混入する堆積物である。試料を指でこすると指にまとわり付き、しばらく後にざらつき感覚が残る。ざらつきは弱い傾向にある。

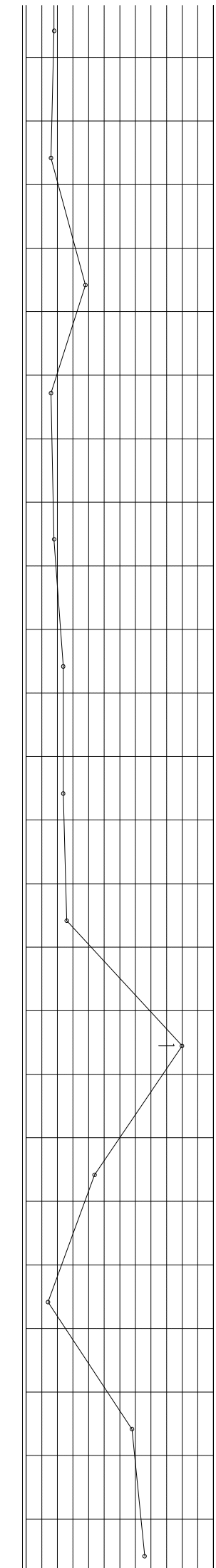
砂から構成される堆積物である。試料を指でこするとざらつき感覚が強い。

砂を主体とし、シルトが混入する堆積物である。試料を指でこすると、やや指にまとわり付き、ざらつき感覚が残る。

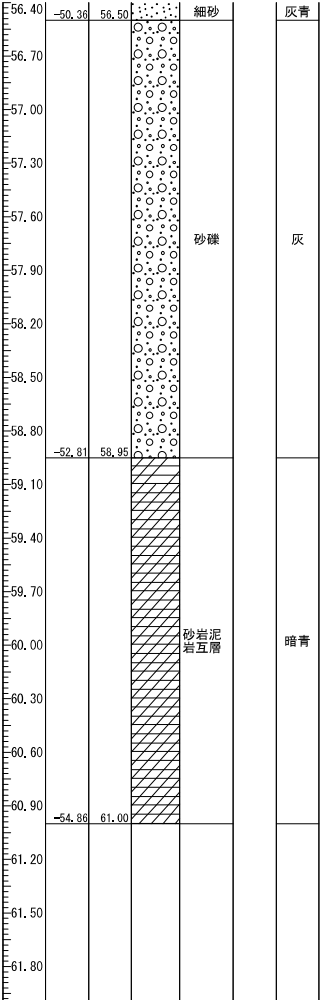
シルトを主体とし、砂が混入する堆積物である。試料を指でこすると、ややざらつき感覚が残る。固結粘土から構成される。層理面が明瞭に存在し、植物片が帯状に分布する。全体的に有機質である。

砂から構成される堆積物である。試料を指でこするとざらつき感覚が強い。

地質世・堆積層

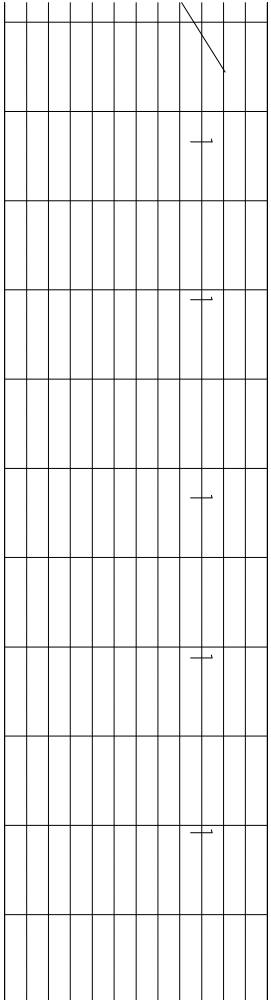


44.15	3	3	3	$\frac{9}{300}$
44.45				
45.15	2	2	4	$\frac{8}{300}$
45.45				
46.15	7	6	6	$\frac{19}{300}$
46.45				
47.00	3	2	3	$\frac{8}{300}$
47.30				
48.15	3	3	3	$\frac{9}{300}$
48.45				
49.15	3	4	5	$\frac{12}{300}$
49.45				
50.15	4	4	4	$\frac{12}{300}$
50.45				
51.15	4	4	5	$\frac{13}{300}$
51.45				
52.15	9	19	22	$\frac{50}{270}$
52.42				
53.15	6	6	10	$\frac{22}{300}$
53.45				
54.15	2	2	3	$\frac{7}{300}$
54.45				
55.15	8	13	13	$\frac{34}{300}$
55.45				
56.15	9	18	11	$\frac{38}{300}$
56.40				



φ30mm～φ80mm程度の硬質な砂岩の円磨された岩片と、砂礫状の基質から構成される。風化程度は低く、粘土・シルトの混入がない。沖積層の一部区間である。

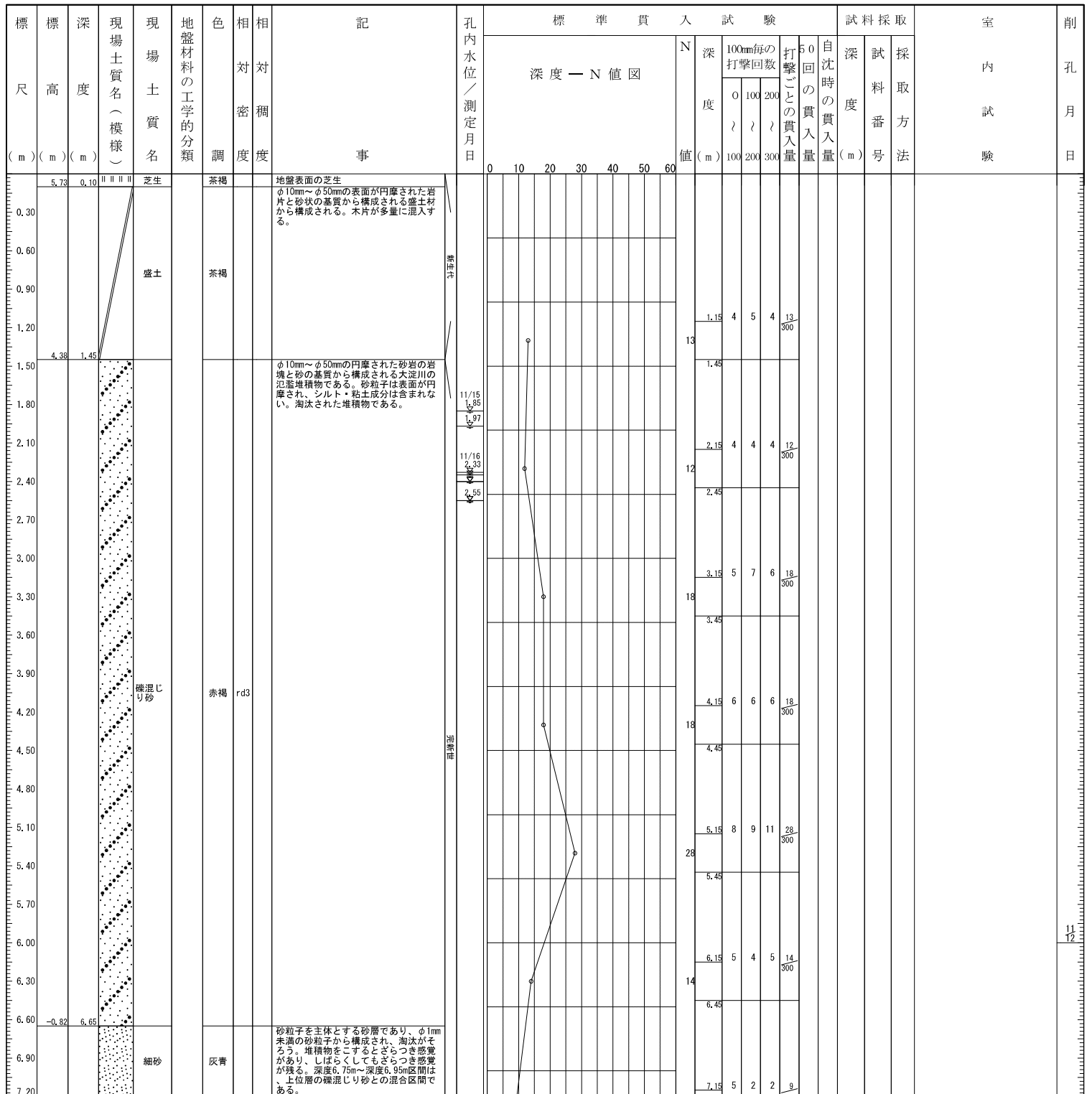
砂岩および泥岩の互層から構成される。砂岩区間は、軟質な岩盤区間である。

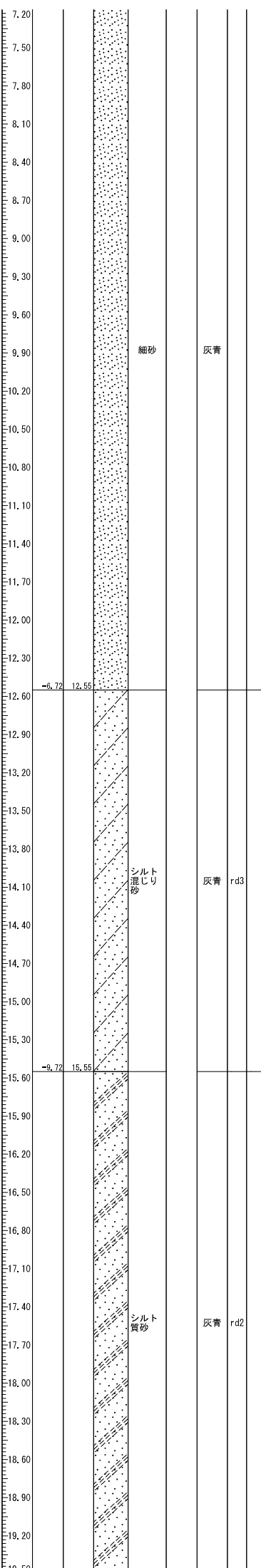


56.43				
60以上	57.15 57.21	60 60	60 60	60
60以上	58.00 58.13	45 15 30	60 130	130
60以上	59.13 59.23	60 50	60 50	50
60以上	60.00 60.14	48 12 40	60 140	140
60以上	61.00 61.10	60	60	100

土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

ボーリング位置：No. 4
 発注機関：宮崎県 県土整備部 営繕課
 調査期間：令和1年11月12日～12月26日
 孔口標高：TP5.83m
 総掘進長：48.45m



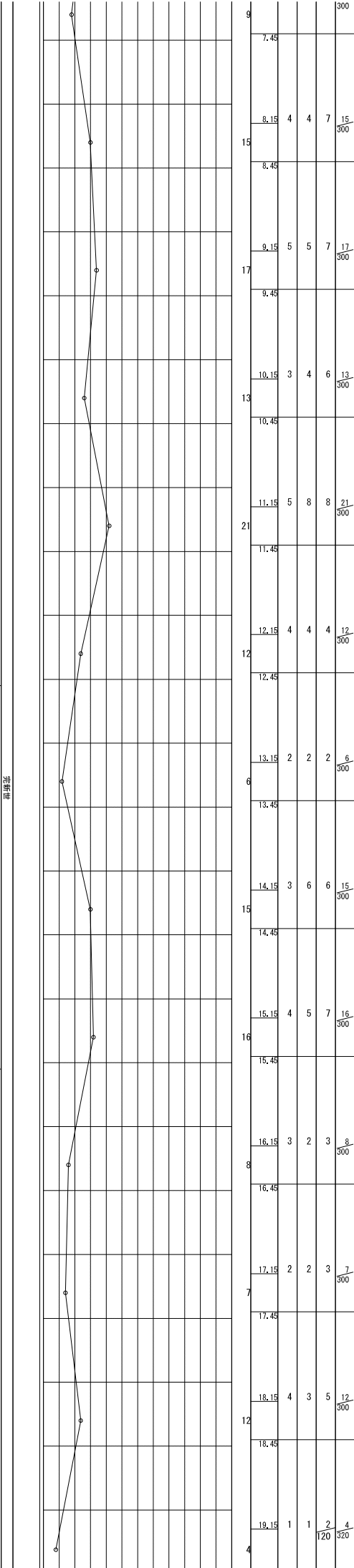


深度7.0m~7.5m間で現場透水試験を実施する。(現場透水試験は、エビゾメーター法、非定常法、注水法)
 深度7.45m~9.0m区間は、貝殻の破片が多量に混入する。深度12.55mに厚さ1cmのシルト混じり砂層が挟存在する。

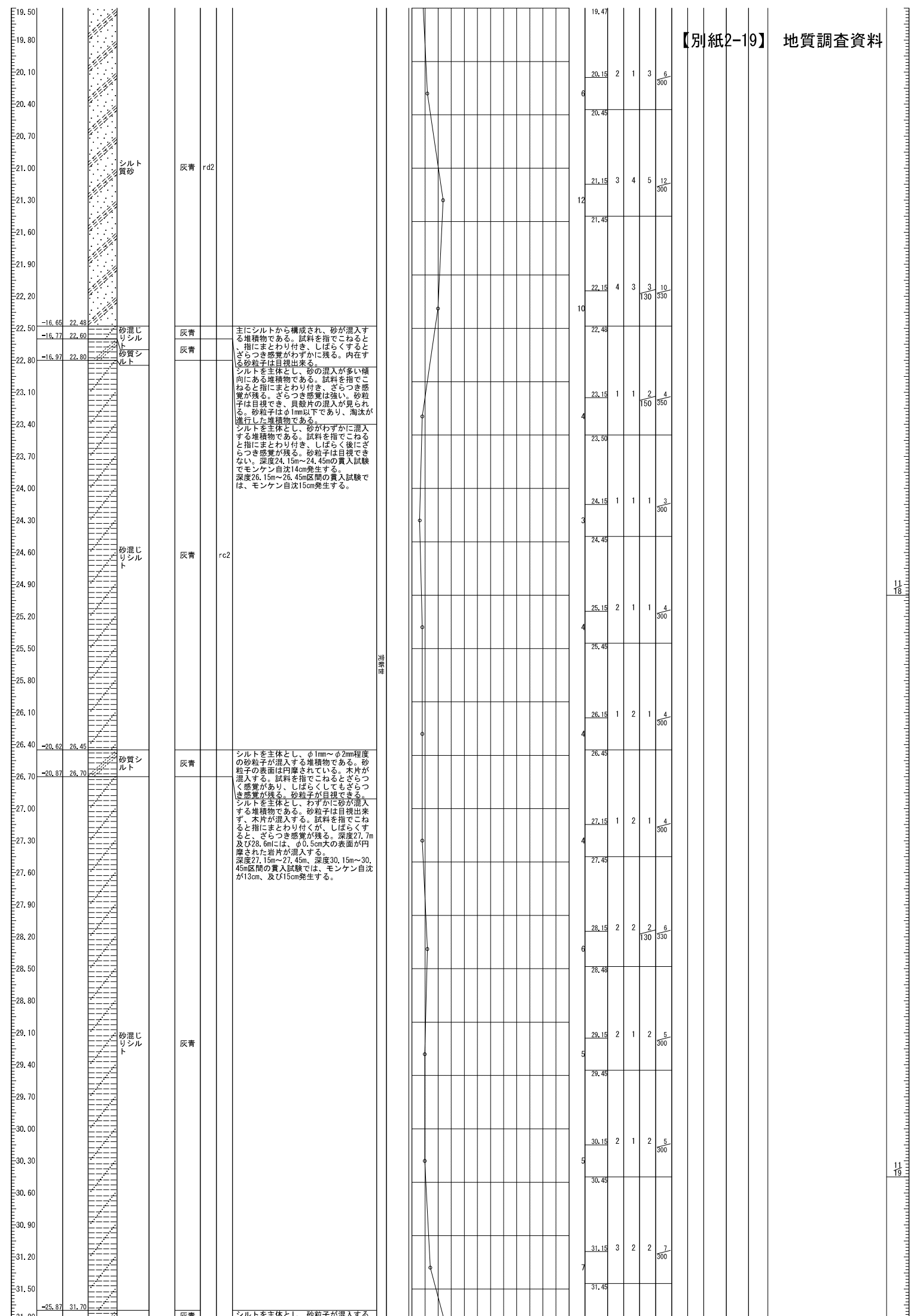
砂を主体とするが、シルトがわずかに混入する堆積物である。深度12.55mに、層厚1cm程度のシルト質砂が挟在する。貝殻片、φ1mm以下の石質岩片が混入する。

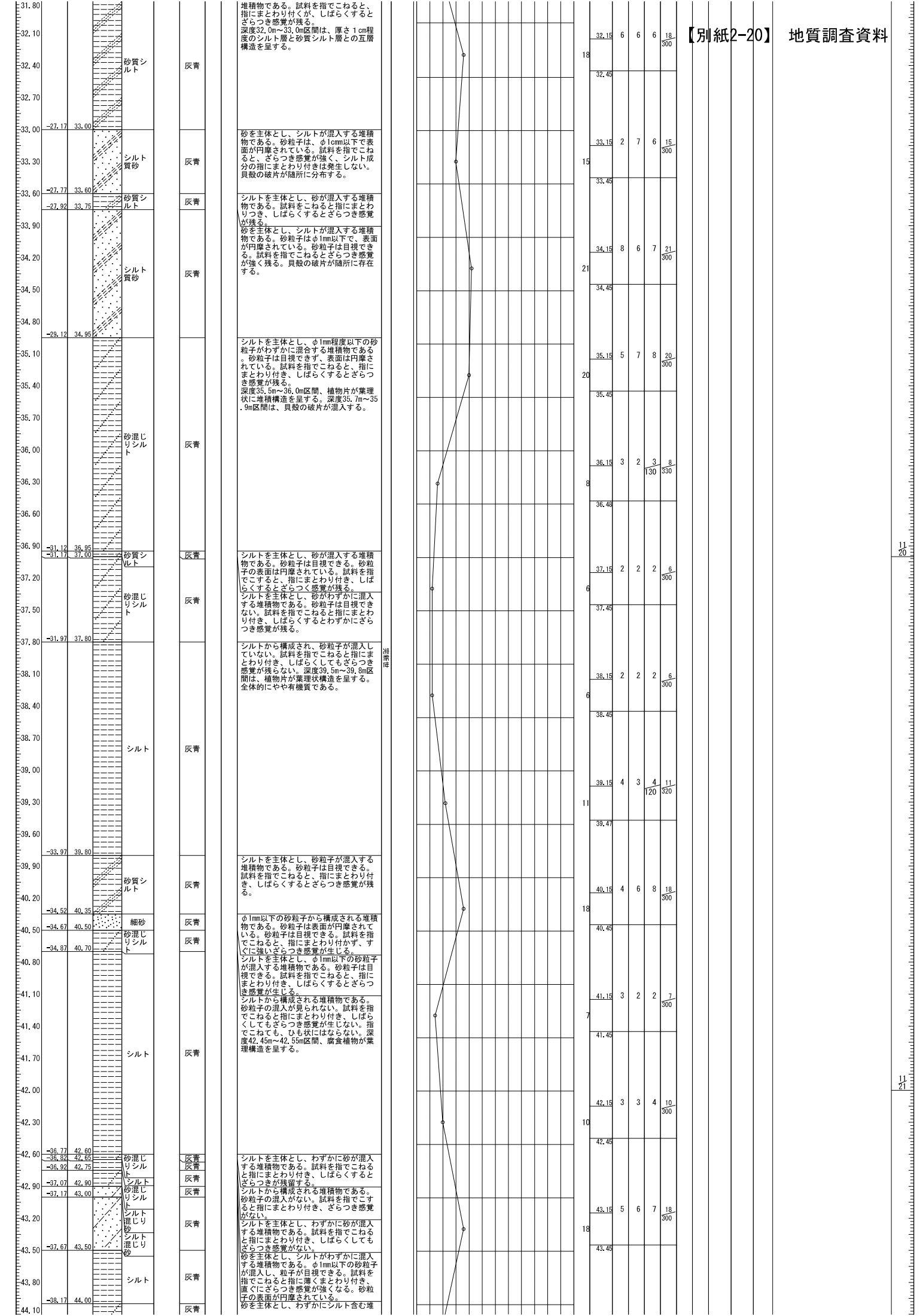
砂を主体とし、円磨された砂粒子が多く混入する。砂の堆積物の間に、厚さ1cm~3cmのシルト、シルト質砂の互層から構成される堆積物である。貝殻片、木片が多く混入する。砂粒子はφ1mm以下で、淘汰された堆積物である。

深度15.55m~15.9m、深度16.5m~16.6m、深度17.45m~18.65m区間は、シルトの1cm~2cmの厚さの層層が挟在する。深度18.8m~18.9m区間は、細砂~中砂の玉状の濃集体が挟在する。



9	7.45			300
15	8.15	4	4	7 15 / 300
	8.45			
17	9.15	5	5	7 17 / 300
	9.45			
13	10.15	3	4	6 13 / 300
	10.45			
21	11.15	5	8	8 21 / 300
	11.45			
12	12.15	4	4	4 12 / 300
	12.45			
6	13.15	2	2	2 6 / 300
	13.45			
15	14.15	3	6	6 15 / 300
	14.45			
16	15.15	4	5	7 16 / 300
	15.45			
8	16.15	3	2	3 8 / 300
	16.45			
7	17.15	2	2	3 7 / 300
	17.45			
12	18.15	4	3	5 12 / 300
	18.45			
4	19.15	1	1	2 4 / 120 320





堆積物である。試料を指でこねると、指にまとわり付きが、しばらくするとざらつき感覚が残る。
 深度32.0m~33.0m区間は、厚さ1cm程度のシルト層と砂質シルト層との互層構造を呈する。

砂を主体とし、シルトが混入する堆積物である。砂粒子は、φ1mm以下で表面が円摩されている。試料を指でこねると、ざらつき感覚が強く、シルト成分の指にまとわり付きは発生しない。貝殻の破片が随所に分布する。

シルトを主体とし、砂が混入する堆積物である。試料をこねると指にまとわりつき、しばらくするとざらつき感覚が残る。
 砂を主体とし、シルトが混入する堆積物である。砂粒子はφ1mm以下で、表面が円摩されている。砂粒子は目視できる。試料を指でこねると、ざらつき感覚が強く残る。貝殻の破片が随所に存在する。

シルトを主体とし、φ1mm程度以下の砂粒子がわずかに混合する堆積物である。砂粒子は目視できず、表面は円摩されている。試料を指でこねると、ざらつき感覚が強く、指にまとわり付き、しばらくするとざらつき感覚が残る。
 深度35.5m~36.0m区間、植物片が葉理状に堆積構造を呈する。深度35.7m~35.9m区間は、貝殻の破片が混入する。

シルトを主体とし、砂が混入する堆積物である。砂粒子は目視できる。砂粒子の表面は円摩されている。試料を指でこねると、指にまとわり付き、しばらくするとざらつき感覚が残る。
 シルトを主体とし、砂がわずかに混入する堆積物である。砂粒子は目視できない。試料を指でこねると指にまとわり付き、しばらくするとわずかにざらつき感覚が残る。

シルトから構成され、砂粒子が混入していない。試料を指でこねると指にまとわり付き、しばらくしてもざらつき感覚が残らない。深度39.5m~39.8m区間は、植物片が葉理状構造を呈する。全体的にやや有機質である。

シルトを主体とし、砂粒子が混入する堆積物である。砂粒子は目視できる。試料を指でこねると、指にまとわり付き、しばらくするとざらつき感覚が残る。

φ1mm以下の砂粒子から構成される堆積物である。砂粒子は表面が円摩されている。砂粒子は目視できる。試料を指でこねると、指にまとわり付き、すぐに強いざらつき感覚が生じる。

シルトを主体とし、φ1mm以下の砂粒子が混入する堆積物である。砂粒子は目視できる。試料を指でこねると、指にまとわり付き、しばらくするとざらつき感覚が生じる。

シルトから構成される堆積物である。砂粒子の混入が見られない。試料を指でこねると指にまとわり付き、しばらくしてもざらつき感覚が生じない。指でこねても、ひも状にはならない。深度42.45m~42.55m区間、腐食植物が葉理構造を呈する。

シルトを主体とし、わずかに砂が混入する堆積物である。試料を指でこねると指にまとわり付き、しばらくするとざらつきが残留する。

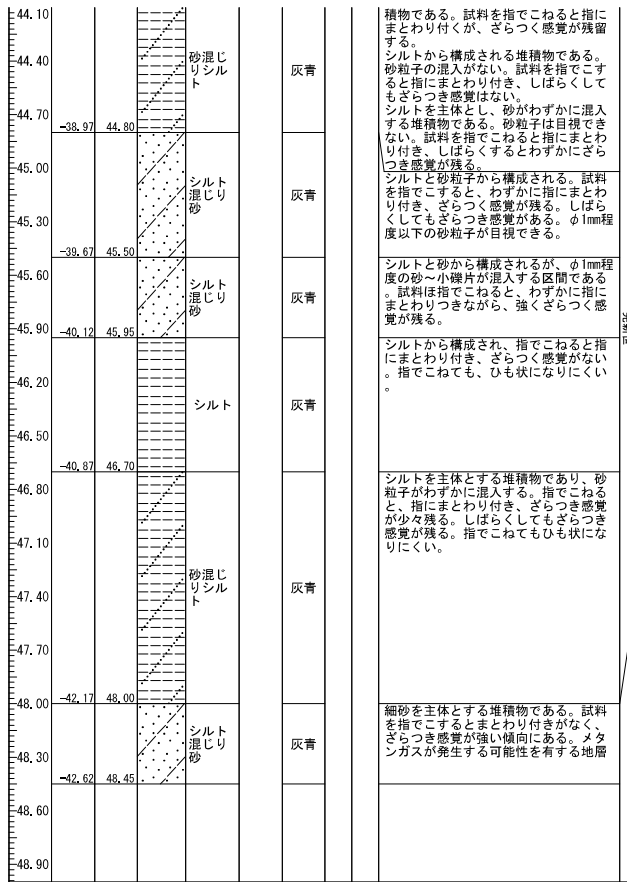
シルトから構成される堆積物である。砂粒子の混入がない。試料を指でこねると指にまとわり付き、ざらつき感覚がない。

シルトを主体とし、わずかに砂が混入する堆積物である。試料を指でこねると指にまとわり付き、しばらくしてもざらつき感覚がない。

砂を主体とし、シルトがわずかに混入する堆積物である。φ1mm以下の砂粒子が混入し、粒子が目視できる。試料を指でこねると指に薄くまとわり付き、直ぐにざらつき感覚が強くなる。砂粒子の表面が円摩されている。

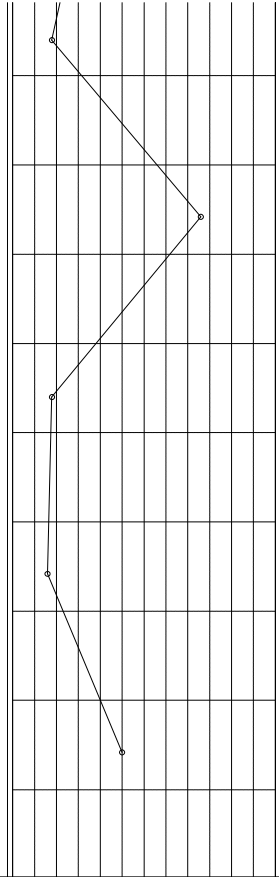
砂を主体とし、わずかにシルトを含む堆積物である。

補修層



標準

種物である。試料を指でこねると指にまとわり付くが、ざらつき感覚が残留する。
シルトから構成される堆積物である。砂粒子の混入がない。試料を指でこねると指にまとわり付き、しばらくしてもざらつき感覚はない。
シルトを主体とし、砂がわずかに混入する堆積物である。砂粒子は目視できない。試料を指でこねると指にまとわり付き、しばらくするとわずかにざらつき感覚が残る。
シルトと砂粒子から構成される。試料を指でこねると、わずかに指にまとわり付き、ざらつき感覚が残る。しばらくしてでもざらつき感覚がある。φ1mm程度以下の砂粒子が目視できる。
シルトと砂から構成されるが、φ1mm程度の砂～小礫片が混入する区間である。試料は指でこねると、わずかに指にまとわりつきながら、強くざらつき感覚が残る。
シルトから構成され、指でこねると指にまとわり付き、ざらつき感覚がない。指でこねても、ひも状になりにくい。
シルトを主体とする堆積物であり、砂粒子がわずかに混入する。指でこねると、指にまとわり付き、ざらつき感覚が少々残る。しばらくしてでもざらつき感覚が残る。指でこねてもひも状になりにくい。
細砂を主体とする堆積物である。試料を指でこねるとまとわり付きがなく、ざらつき感覚が強い傾向にある。メタンガスが発生する可能性を有する地層



44.15	3	3	9
44.47		120	320
45.15	12	15	43
45.45			300
46.15	3	3	9
46.15		120	320
46.47			
47.15	2	3	8
47.15		3	300
47.45			
48.15	4	8	25
48.15		13	300
48.45			

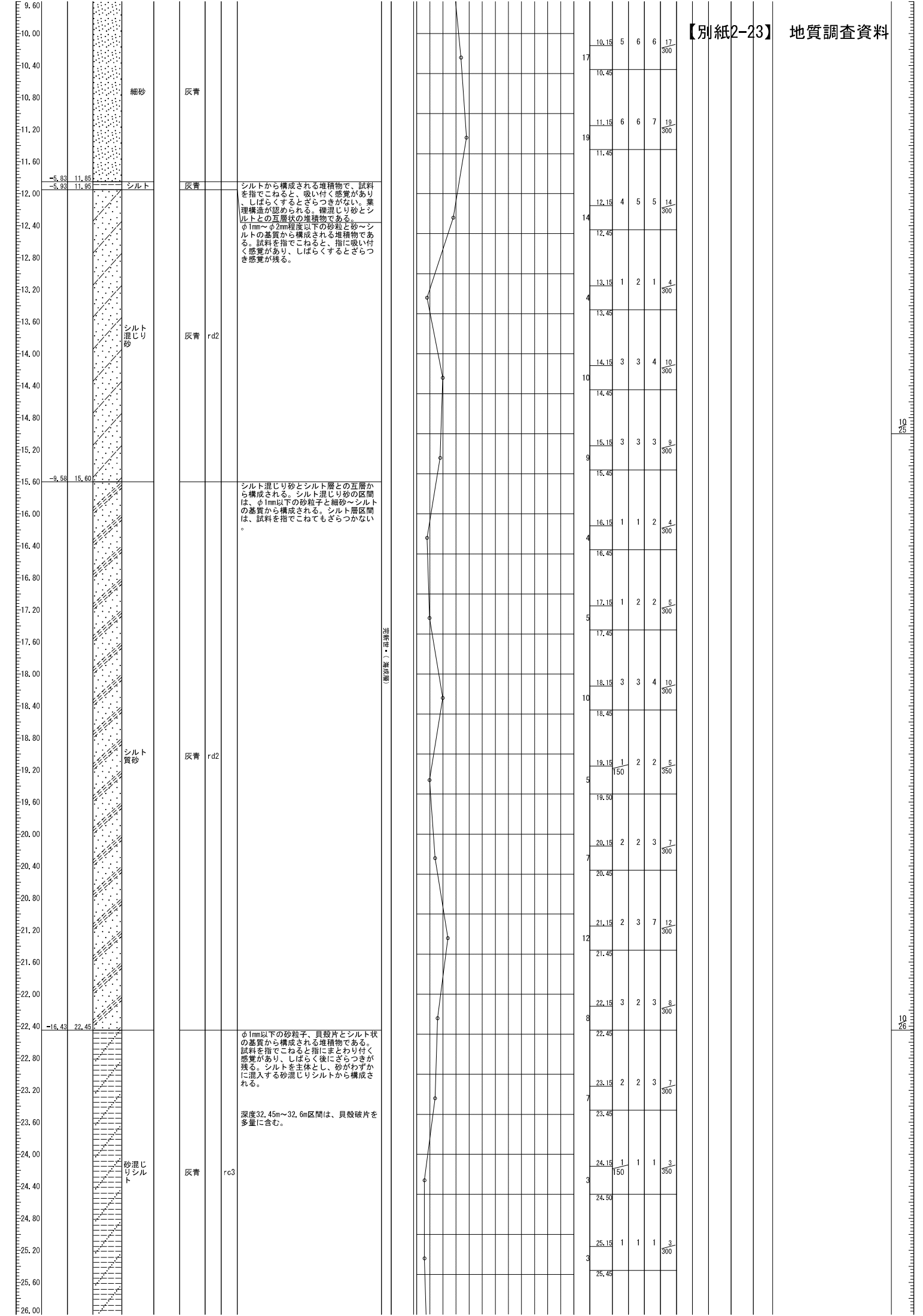
土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

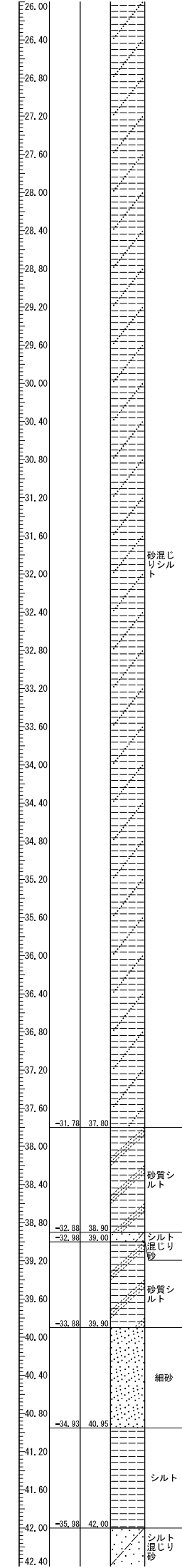
ボーリング位置：No. 5
 発注機関：宮崎県 県土整備部 営繕課
 調査期間：令和1年10月22日～11月7日
 孔口標高：TP6.02m
 総掘進長：58.00m

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	現場土質名 (模様)	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色調	相對密度	相對稠度	記 事	孔内水位 / 測定月日	標準貫入試験					試料採取		室内試験	削孔月日	
											深度 - N 値 図					深 度 (m)	試 料 番 号			採 取 方 法
	5.92	0.10	II III II II	芝生					木根が混入する砂状の堆積物である。 φ50mm~φ80mm、最大φ250mmの砂岩の円蓋された岩片と砂状の基質から構成された盛土材から構成されている。深度0.8m程度以下からは、陶器の破片が混入する。シルト・粘土成分の基質への混入は見られない。煉瓦・ガラスの破片、プラスチックの破片が混入する。	10/24 1.40	6	1.15	2	2	2	6/300				
	4.22	1.80		礫混じり砂		灰青	rd3		φ5mm程度以下の礫片と砂状の基質から構成される堆積物である。木片及びプラスチック片が混入する。	10/25 2.40	12	2.15	3	4	5	12/300				
	3.12	2.90		砂礫		灰青			φ5mm~φ20mm程度の円蓋された砂岩岩片と砂~礫片の基質から構成される砂礫層である。砂岩の岩片は風化程度が異なるものが混在する。大淀川の氾濫堆積物である。			2.43								
	3.02	3.00		礫混じり砂		灰白			φ5mm程度以下の礫片と砂状の基質から構成される堆積物である。木片が混入する。			3.15	4	4	5	13/300				
	2.42	3.60		砂礫		灰青			φ5mm~φ20mm程度の円蓋された砂岩岩片と砂~礫片の基質から構成される砂礫層である。砂岩の岩片は風化程度が異なるものが混在する。大淀川の氾濫堆積物である。			3.42								
	-0.68	6.70		礫混じり砂		灰白	rd3		φ5mm~φ15mm程度の円蓋と砂状の基質から構成される堆積物である。			4.15	3	4	5	12/300				
												4.45								
												5.15	6	6	6	18/300				
												5.45								
												6.15	5	5	5	15/300				
												6.45								
									砂を主体とする堆積物で、試料を指でこするとざらつき、しばらくこねてもざらつきが残る。貝殻の破片が多く混入する。深度6.45m~6.6m区間は、下位の細砂と礫混じり砂との混合区間である。			7.15	1	3	5	9/300				
												7.45								
												8.15	5	4	5	14/300				
												8.45								
												9.15	4	5	5	14/300				
												9.45								

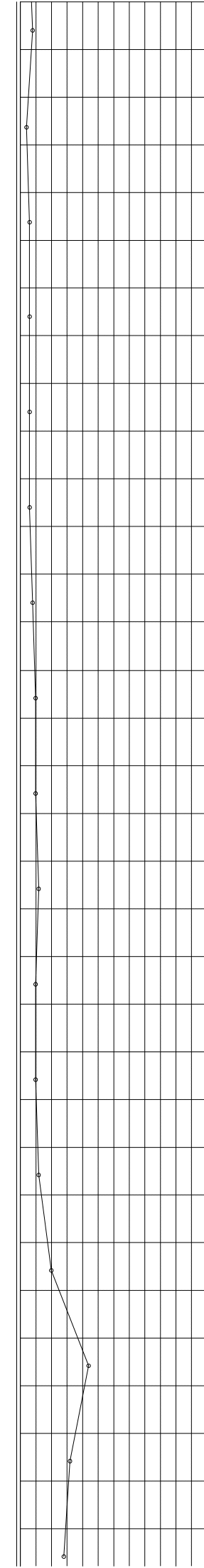
10/23

10/24

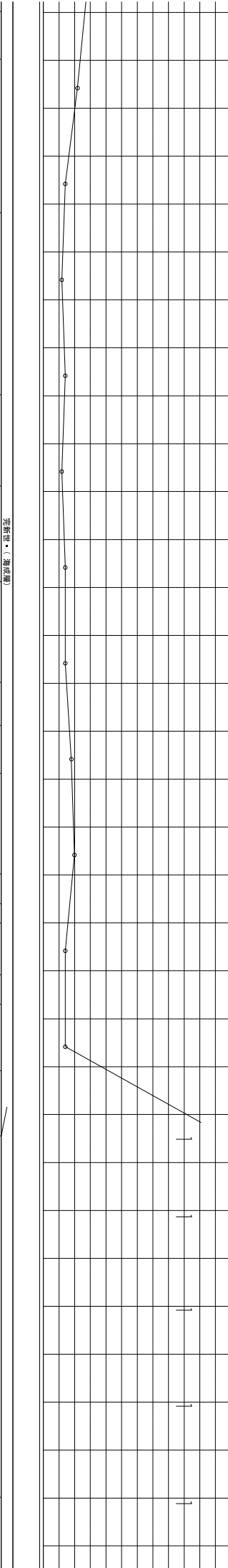
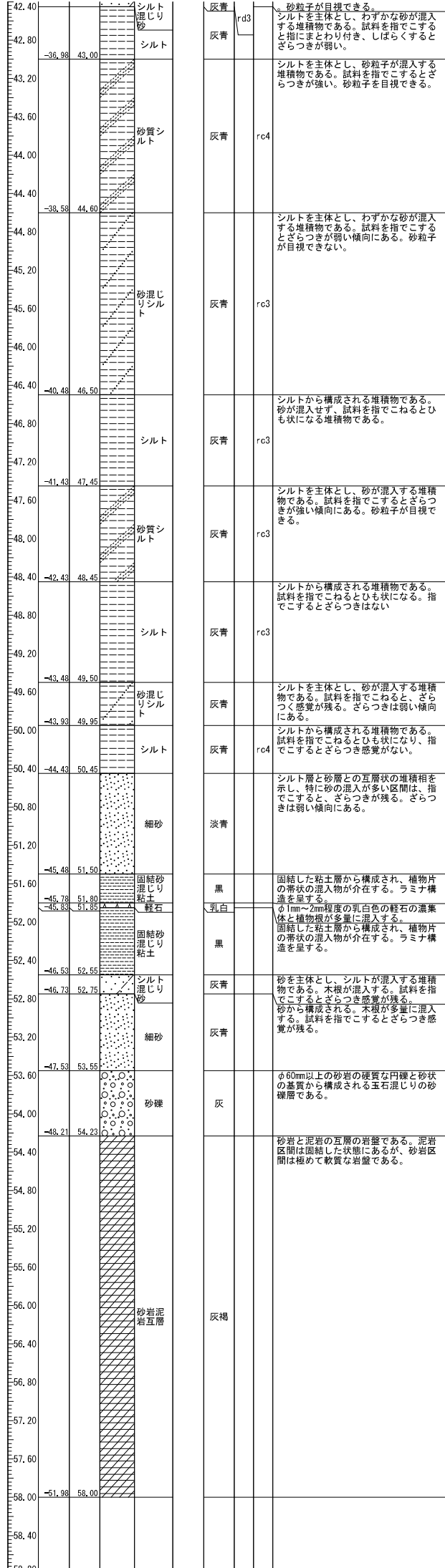




26.00					
26.40					
26.80					
27.20					
27.60					
28.00					
28.40					
28.80					
29.20					
29.60					
30.00					
30.40					
30.80					
31.20					
31.60					
32.00		砂混じりシルト	灰青	rc3	
32.40					
32.80					
33.20					
33.60					
34.00					
34.40					
34.80					
35.20					
35.60					
36.00					
36.40					
36.80					
37.20					
37.60					
38.00	-31.78	37.80			
38.40			灰青	rc3	シルトを主体とし、砂が混入する堆積物である。試料を指でこすると、指にまわり付き、しばらくするとざらつきが残る。指でこねてもひも状にならない。砂の混入量が比較的多い。
38.80					
39.20	-32.88	38.90	灰青	rc4	砂粒子が目視できるサイズとシルト状の基質から構成される。試料を指でこねるとわずかに指にまわり付くが、すぐにざらつき感覚が残る。砂粒子が極めて多い区間である。
39.60			灰青	rc4	シルトを主体とし、砂が混入する堆積物である。試料を指でこすると、指にまわり付き、しばらくするとざらつきが残る。指でこねてもひも状にならない。砂の混入量が比較的多い。
40.00	-33.88	39.90	灰青		砂を主体とする堆積物である。粒子が目視できるサイズとシルト状の基質から構成される。指でこねるとわずかに指にまわり付くが、すぐにざらつき感覚が残る。砂粒子が極めて多い区間である。
40.40					
40.80					
41.20	-34.83	40.95	灰青	rc5	シルトを主体とする堆積物であり、試料を指でこねるとひも状に変化し、指にまわり付く感覚がある。ざらつき感覚がない。砂粒子の混入がほとんどないシルト層である。
41.60					
42.00	-35.98	42.00	灰青	rd3	砂を主体とし、シルトが混入する堆積物である。試料を指でこすると指にまわり付き、しばらくするとざらつき
42.40					



26.15	1	2	1	4	300
26.45					
27.15	1	1		2	330
27.45					
28.15	1	1	1	3	320
28.45					
29.15	1	1	1	3	300
29.45					
30.15	1	1	1	3	300
30.45					
31.15	1	1	1	3	300
31.45					
32.15	1	2	1	4	300
32.45					
33.15	2	1	2	5	300
33.45					
34.15	1	2	2	5	300
34.45					
35.15	2	2	2	6	300
35.45					
36.15	1	2	2	5	300
36.45					
37.15	2	1	2	5	300
37.45					
38.15	2	2	2	6	300
38.45					
39.15	2	4	4	10	300
39.45					
40.15	4	7	11	22	300
40.45					
41.15	4	6	6	16	300
41.45					
42.15	4	5	5	14	300



42.45								
43.15	3	3	5	11				
43.45								
44.15	2	2	3	7				
44.45								
45.15	2	2	2	6				
45.45								
46.15	2	3	2	7				
46.45								
47.15	2	2	2	6				
47.45								
48.15	2	2	3	7				
48.45								
49.15	2	3	2	7				
49.45								
50.15	3	3	3	9				
50.45								
51.15	3	4	3	10				
51.45								
52.15	2	2	3	7				
52.45								
53.15	2	3	2	7				
53.45								
54.15	23	25	12	60	230			
54.38								
55.00	32	28	50	60	150			
55.15								
56.00	60			60	100			
56.10								
57.00	60			60	100			
57.10								
58.00	35	25	30	60	130			
58.13								

土質ボーリング柱状図 (標準貫入試験)

＜宮崎北警察署庁舎建設工事に伴う地盤調査＞

【別紙2-26】 地質調査資料

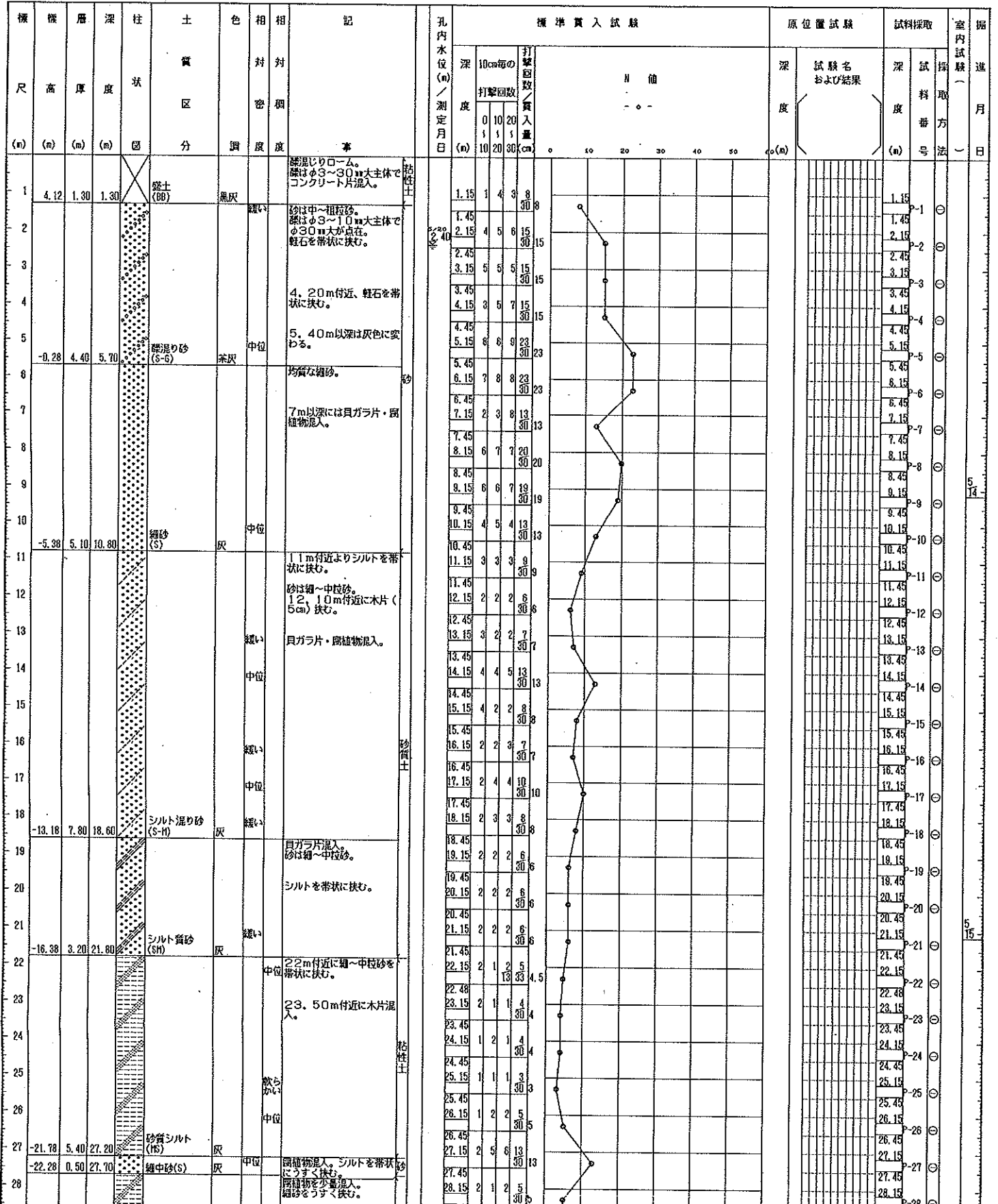
既存ボーリング位置 (H5年度調査) : No. 1

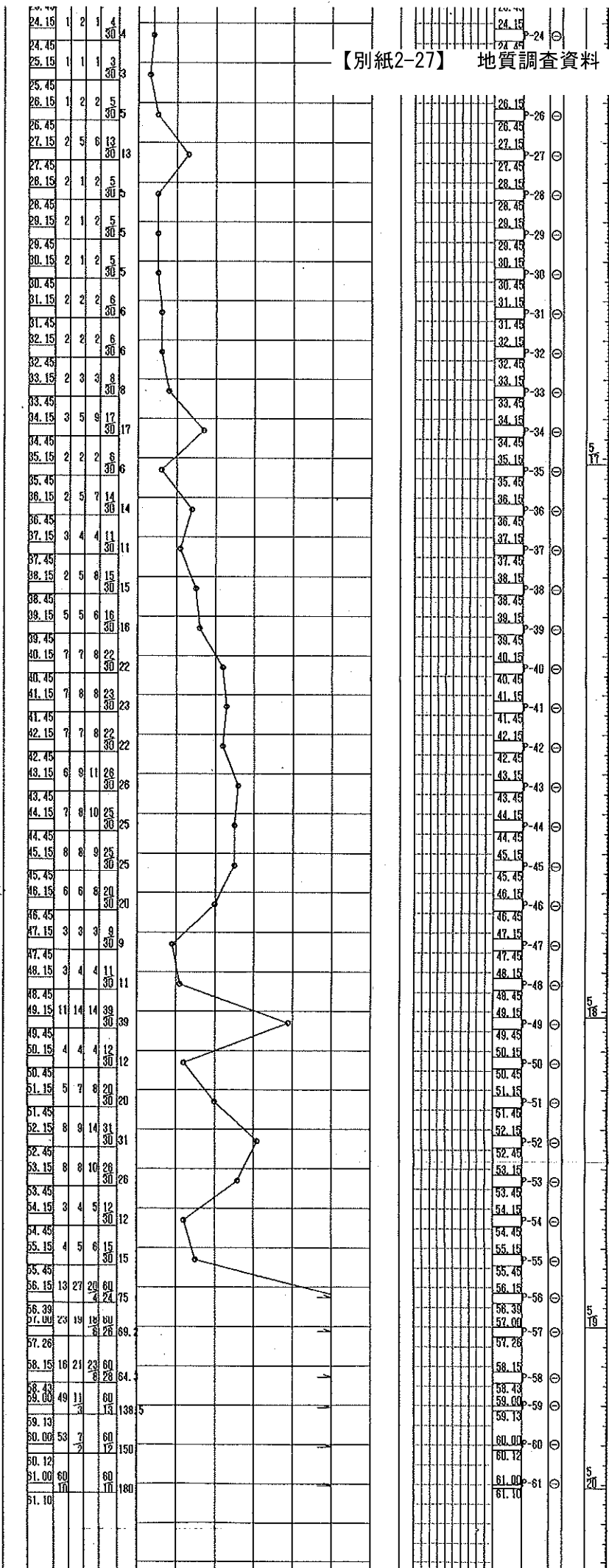
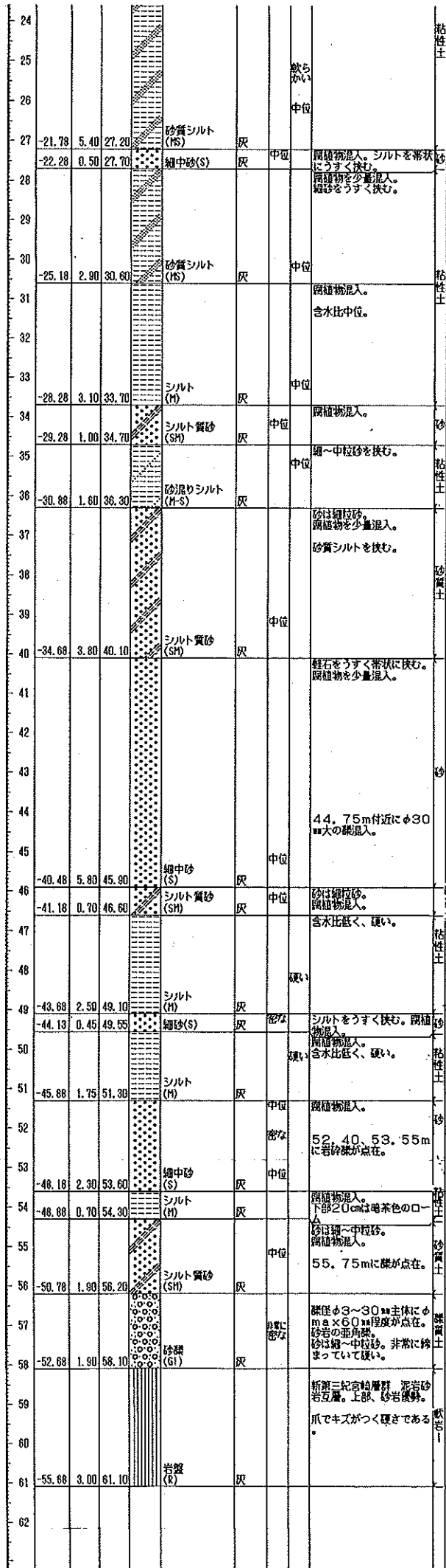
発注機関 : 宮崎県

調査機関 : 平成5年5月14日～平成5年5月20日

孔口標高 : GH5.42m

総掘進長 : 61.10m





土質ボーリング柱状図 (標準貫入試験)

【別紙2-28】 地質調査資料

<宮崎北警察署庁舎建設工事に伴う地盤調査>

既存ボーリング位置 (H5年度調査) : No. 2

発注機関 : 宮崎県

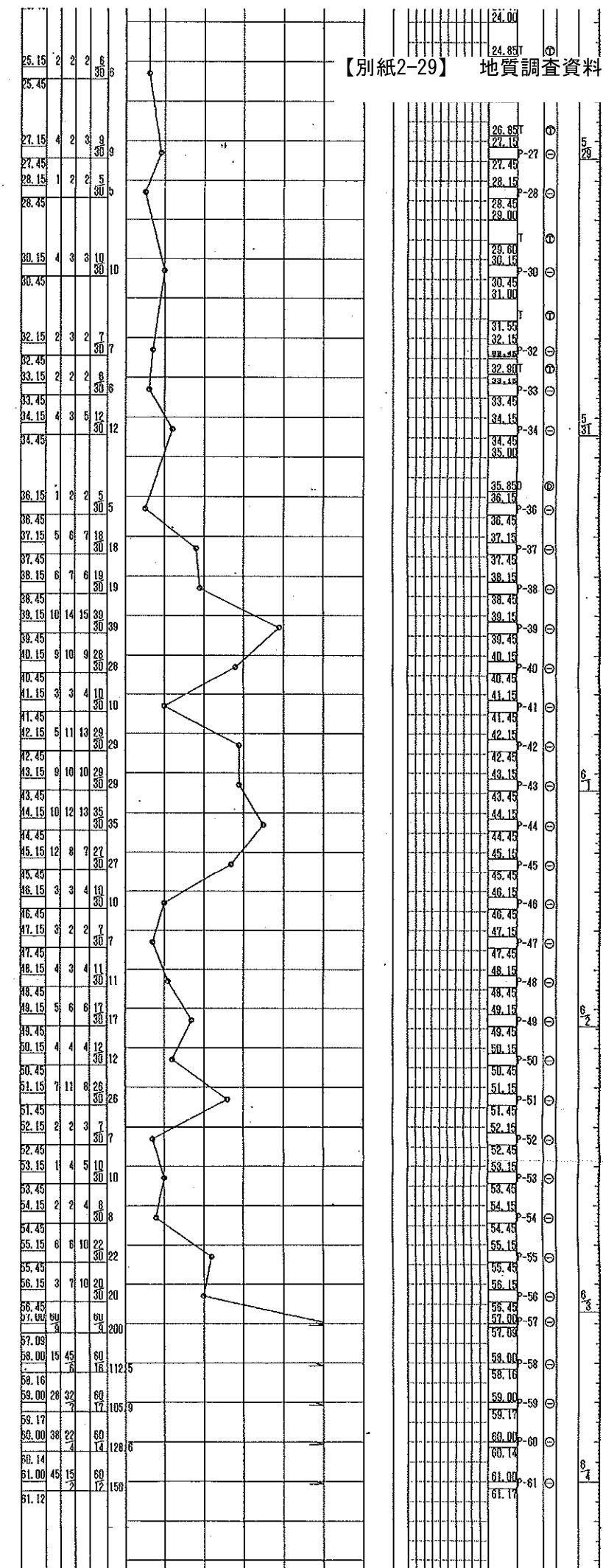
調査機関 : 平成5年5月27日~平成5年6月3日

孔口標高 : GH5.31m

総掘進長 : 61.00m

概 尺 (m)	標 高 (m)	層 厚 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	土 質 区 分	色 調	相 対 密 度	相 対 稠 度	記 事	標準貫入試験					原位置試験		試料採取		室内試験 (月 日)
										深 度 (m)	10cm毎の 打撃回数 (n)	打撃回数 / 貫入量 (n/cm)	N 値	深 度 (m)	試験名 および結果	深 度 (m)	試 料 採 取 方 法		
4.61	0.79	0.70			硬土 (BB)	黒			表面0.10mはアスファルト、0.35mまでは砕石、以ては中砂。 粒径φmax×50mm。	1.15	4	6	14			1.15	P-1	◎	5 27
									1.80m付近に軽石点在。	1.45	4	6	14			1.45			
										2.15	7	6	22			2.15	P-2	◎	
										2.45	6	6	17			2.45			
										3.15	5	6	17			3.15	P-3	◎	
										3.45	5	8	21			3.45			
										4.15	5	8	21			4.15	P-4	◎	
										4.45	5	8	21			4.45			
										5.15	6	5	19			5.15	P-5	◎	
										5.45	5	5	15			5.45			
										6.15	5	5	15			6.15	P-6	◎	
										6.45	6	11	30			6.45			
										7.15	6	11	30			7.15	P-7	◎	
										7.45	6	6	18			7.45			
										8.15	6	6	18			8.15	P-8	◎	
										8.45	8	9	28			8.45			
										9.15	8	9	28			9.15	P-9	◎	
										9.45	6	8	23			9.45			
										10.15	6	8	23			10.15	P-10	◎	
										10.45	6	5	17			10.45			
										11.15	6	5	17			11.15	P-11	◎	
										11.45	3	3	9			11.45			
										12.15	3	3	9			12.15	P-12	◎	
										12.45						12.45			
										13.65	3	4	12			13.65	T	◎	
										14.45	2	3	9			14.45	P-13	◎	
										14.75	2	3	9			14.75			
										14.45	4	4	13			14.45	P-14	◎	
										15.15	4	4	13			15.15			
										15.45						15.45	P-15	◎	
										17.15	3	4	12			17.15	T	◎	
										17.45	2	3	9			17.45	P-17	◎	
										18.15	3	3	9			18.15			
										18.45	3	3	9			18.45	P-18	◎	
										19.15	3	3	9			19.15			
										19.45						19.45	P-19	◎	
										20.00						20.00			
										21.15	2	2	6			21.15	P-21	◎	
										21.45						21.45			
										23.15	2	2	6			23.15	T	◎	
										23.45						23.45	P-23	◎	
										24.00						24.00			
										25.15	2	2	6			25.15	T	◎	
										25.45						25.45	P-25	◎	
										27.15	4	2	9			27.15	T	◎	
										27.45						27.45	P-27	◎	
										28.15	1	2	5			28.15			
										28.45						28.45	P-28	◎	
										29.00						29.00	T	◎	

24							
25						中位	26.00~26.85m シンウォール採取。土質試験。
26						硬い	
27						中位	29.00~29.60m シンウォール採取。土質試験。
28						硬い	
29						中位	
30						硬い	
31						中位	
32	26.69	10.00	32.00			シルト (M)	灰
33						中位	腐植物混入。 32.50~32.90m シンウォール採取。土質試験。
34						硬い	
35						中位	36.10m付近にφ2cm 程度の角礫混入。
36						中位	
37	31.49	4.80	36.80			砂質シルト (HS)	黒褐
38						中位	砂は細粒砂、部分的に中砂を挟む。 腐植物を少量混入。
39						密な	
40	35.19	3.70	40.50			シルト質砂 (SH)	灰
41						硬い	含水比低く、硬い。
42	38.44	1.25	41.75			シルト (H)	暗灰
43						中位	細砂を部分的に5cm層で挟む。
44						密な	
45						中位	44.70m付近からφm a×20mの鉄線在。
46	40.59	4.15	45.90			中砂 (S)	灰
47						硬い	含水比低く、硬い。 46.35m付近、若干の 細粒砂混じる。
48						中位	
49	43.69	3.10	49.00			シルト (M)	暗灰
50						中位	49.05~49.45m 腐植物混入。
51	45.49	1.80	50.80			細砂 (S)	灰
52	46.04	0.55	51.35			シルト質砂 (SH)	灰
53	46.77	3.15	54.30			シルト (S)	淡灰
54						中位	火山灰質砂質土。 含水比低く、硬い。 部分的に細砂を塊状に挟む。
55						硬い	
56	48.49	3.30	54.80			砂質シルト (HS)	灰
57						中位	54.05~54.30m に黒褐のローンを挟み、顆粒 シルトが混入。
58						中位	腐植物が茶状に混入。
59						中位	
60	51.39	1.90	56.70			細中砂 (S)	灰
61						硬い	縦はφ3~30mmを主体に φm a×60mm大の砂岩垂直 角礫。 砂は細~中砂。
62	52.79	1.40	58.10			砂礫 (G)	灰
	53.24	0.13	58.29			風化岩 (MR)	灰
						風化岩 (MR)	灰
	55.69	2.75	61.00			岩盤 (R)	灰



<宮崎北警察署庁舎建設工事に伴う地盤調査>

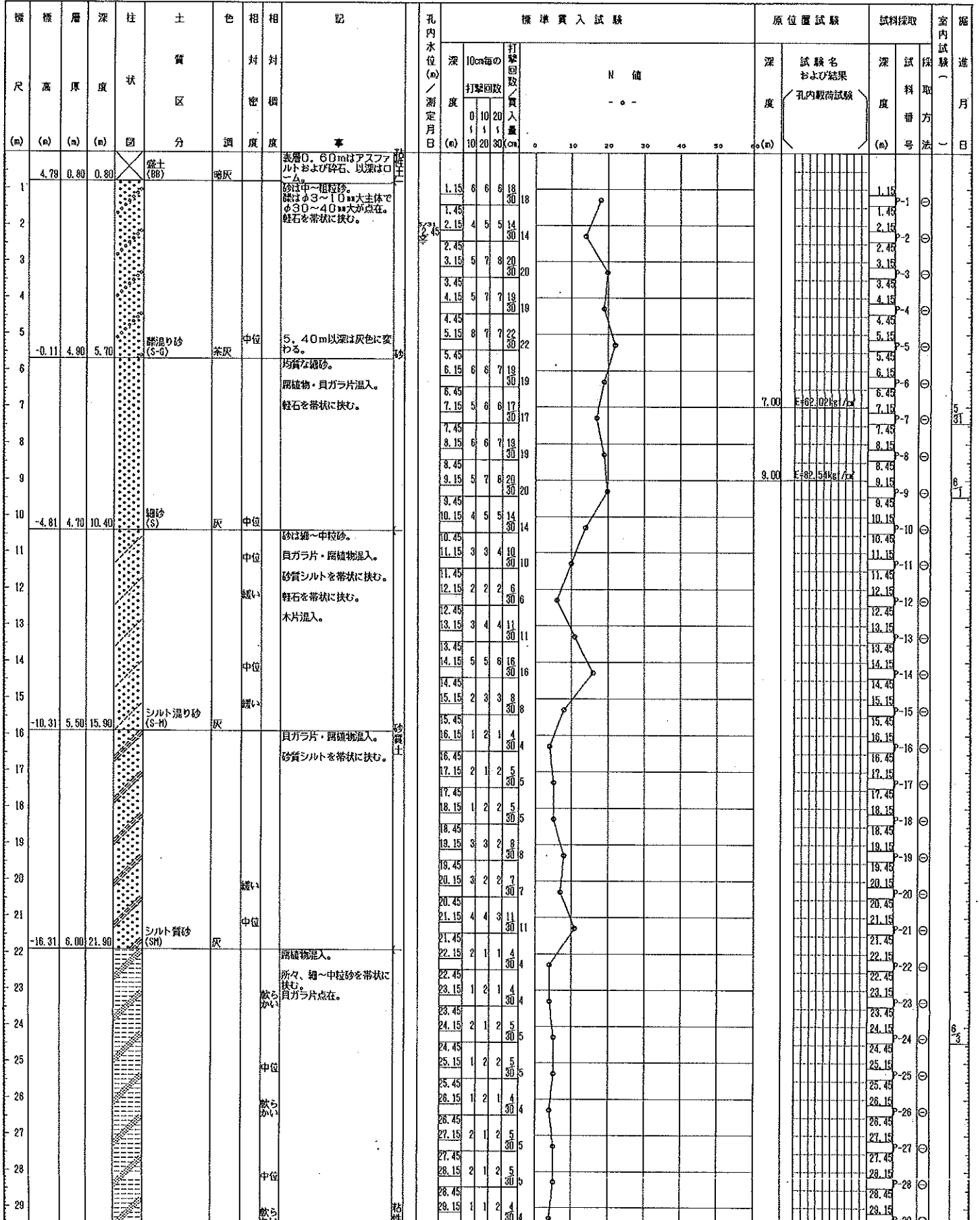
既存ボーリング位置（H5年度調査）：No. 3

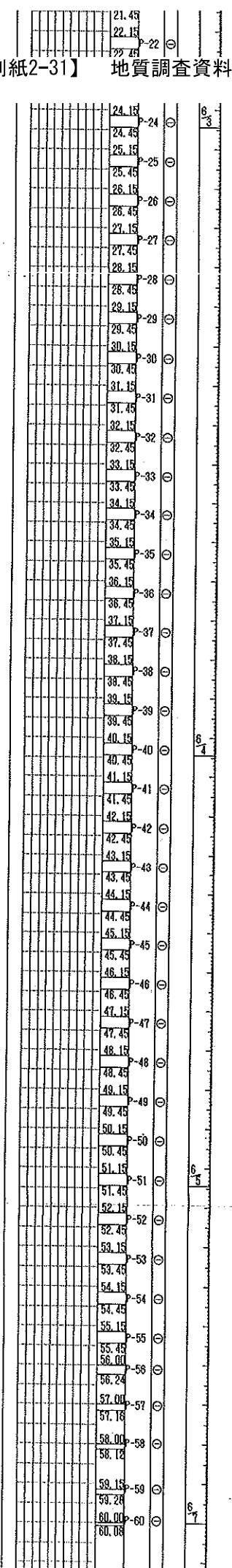
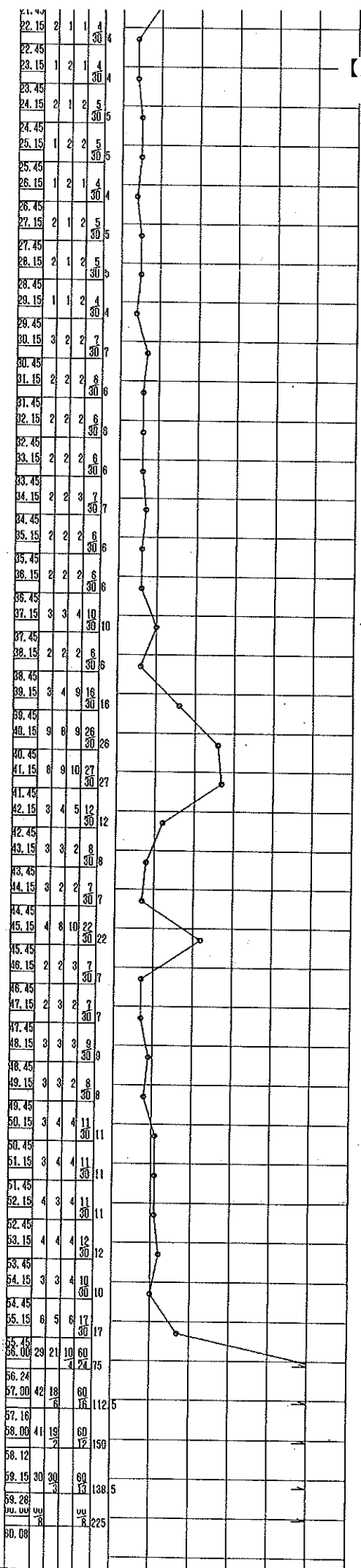
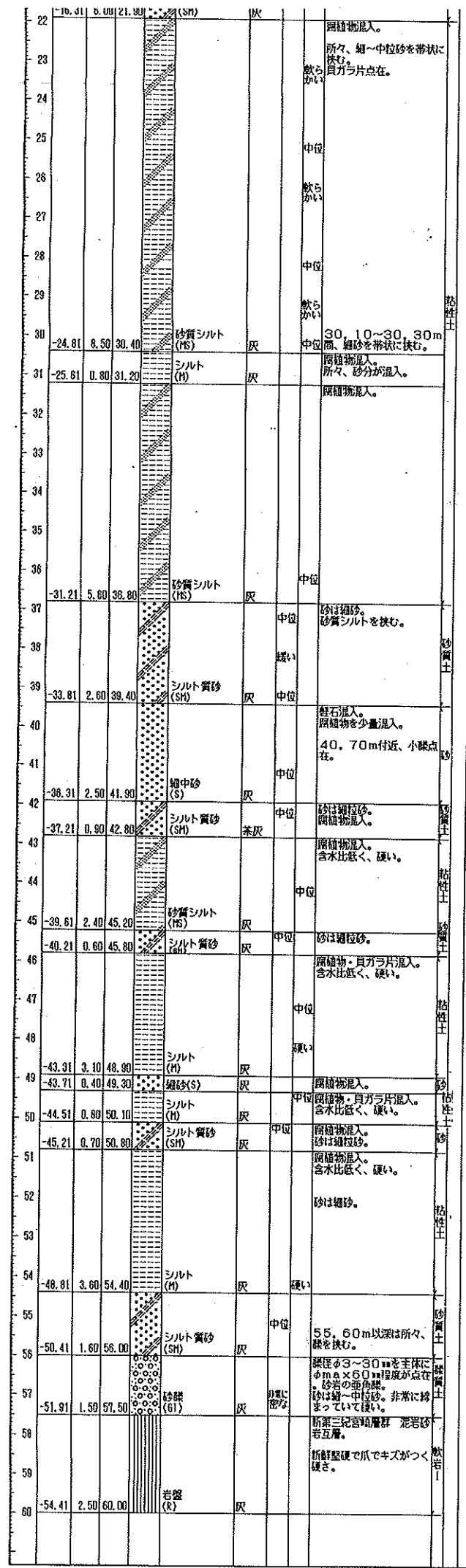
発注機関：宮崎県

調査機関：平成5年5月14日～平成5年5月20日

孔口標高：GH5.59m

総掘進長：60.00m





土質ボーリング柱状図 (標準貫入試験)

【別紙2-32】

地質調査資料

＜宮崎北警察署庁舎建設工事に伴う地盤調査＞

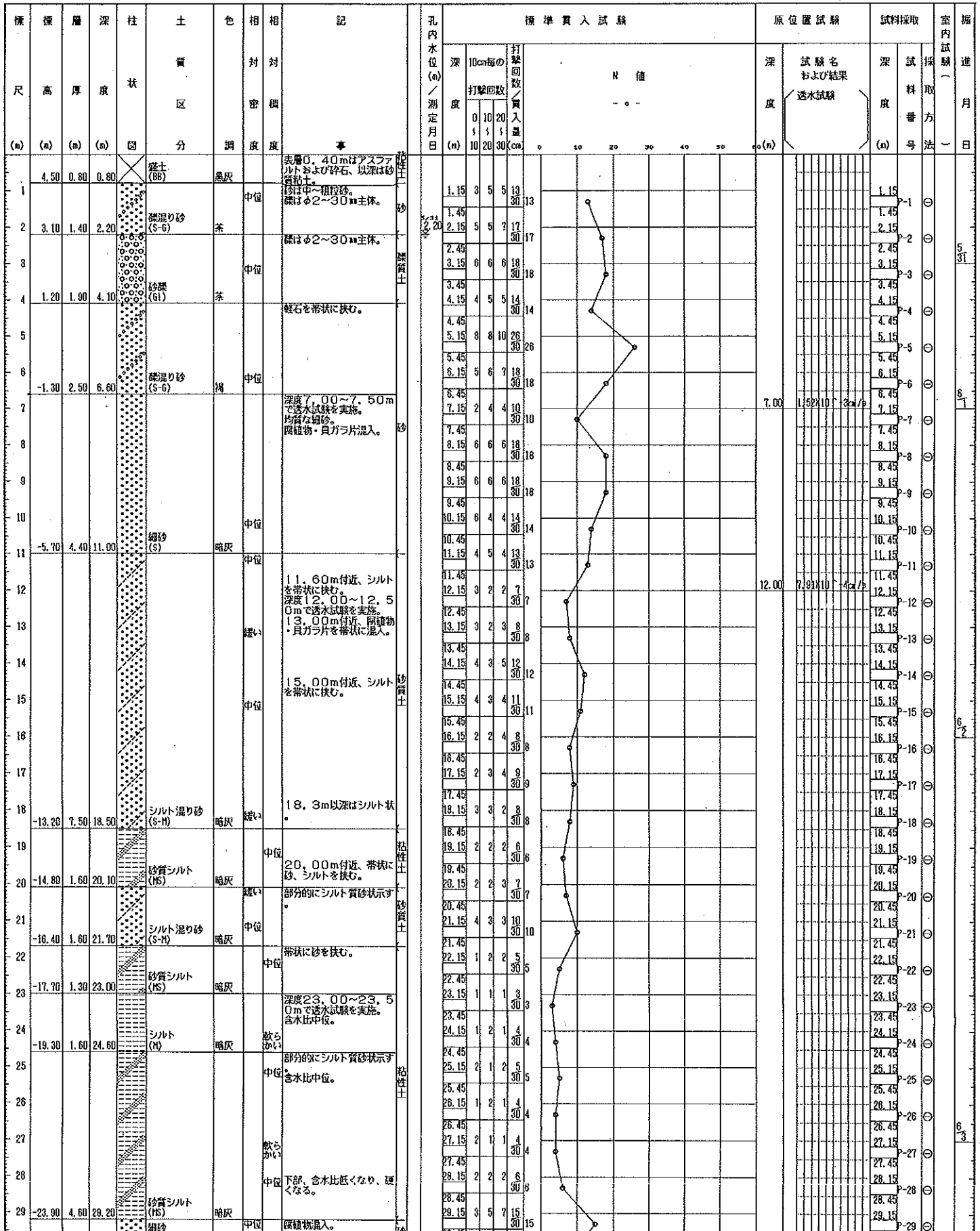
既存ボーリング位置 (H5年度調査) : No. 4

発注機関 : 宮崎県

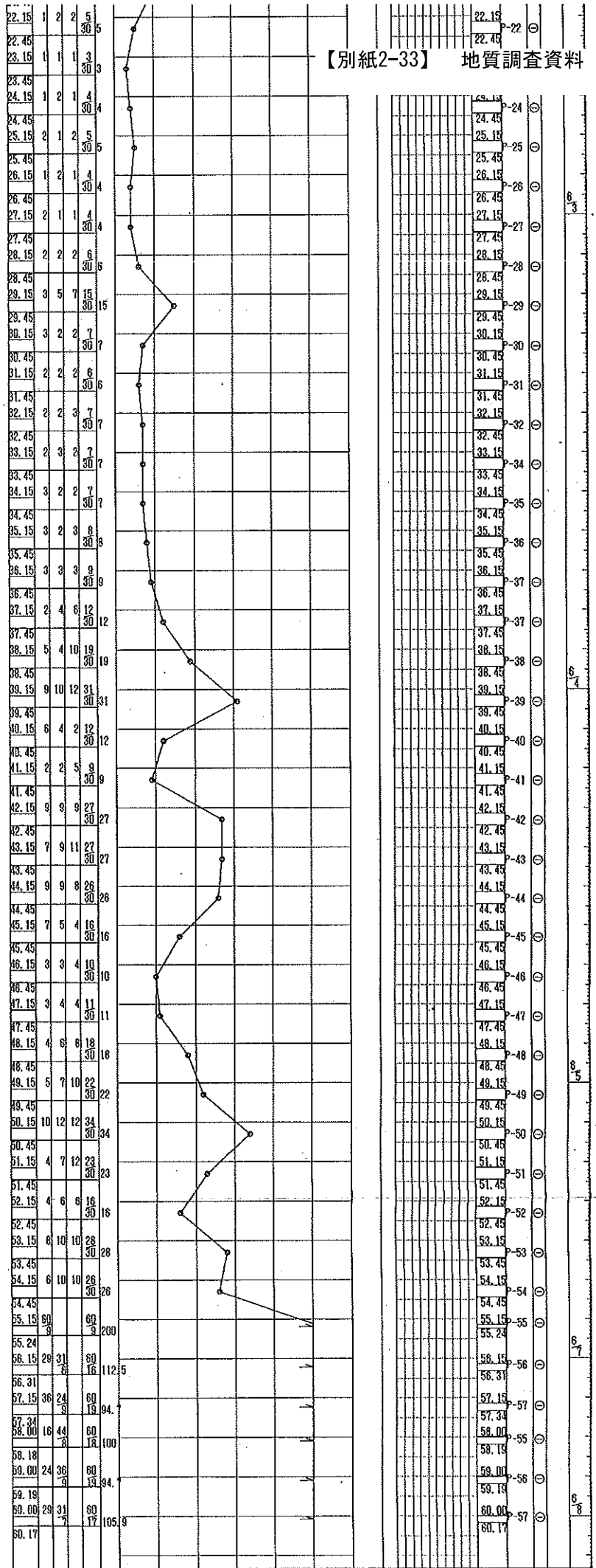
調査機関 : 平成5年5月31日～平成5年6月8日

孔口標高 : GH5.30m

総掘進長 : 60.00m



22	-17.70	1.30	23.00	砂質シルト (HS)	暗灰	中位	帯状に砂を挟む。	粘性土
23								
24	-19.30	1.60	24.60	シルト (H)	暗灰	軟らかい	深度23.00~23.50mで透水試験を実施。含水比中位。	粘性土
25						中位	部分的にシルト質砂状を示す含水比中位。	粘性土
26								
27						軟らかい		
28						中位	下部、含水比低くなり、硬くなる。	粘性土
29	-23.90	4.60	29.20	砂質シルト (HS)	暗灰	中位		砂
30	-24.60	0.70	29.90	細砂 (S)	暗灰	中位	腐植物混入。	砂
31							含水比中位。	
32								粘性土
33								
34								粘性土
35						中位	深き方向に次第に硬さを増す。	粘性土
36								
37								
38	-32.50	7.90	37.80	シルト (H)	暗灰	硬い		
39	-33.00	0.50	38.30	シルト混り砂 (HS)	暗灰	中位	38.20~38.30mにシルトを挟む。	砂
40	-34.90	1.90	40.20	細中砂 (S)	暗灰	密な		砂
41							露点在。	粘性土
42	-36.30	1.40	41.60	砂質シルト (HS)	暗灰	硬い	41.00m付近、腐植物を若干混入。	砂
43							若干の小礫混入。	砂
44						中位		粘性土
45	-40.00	3.70	45.30	細中砂 (S)	暗灰	密な	45.00m付近、腐植物・軽石混入。	粘性土
46						硬い	含水比低く、硬い。	粘性土
47	-42.30	2.30	47.60	砂質シルト (HS)	暗灰	硬い	46.20m付近、細砂を挟む。	粘性土
48							腐植物混入。	砂
49						中位		粘性土
50	-45.30	3.00	50.60	細砂 (S)	暗灰	密な	50m付近、帯状にシルトを挟む。	粘性土
51	-46.00	0.70	51.30	シルト (H)	暗灰	中位	含水比低く、硬い。	粘性土
52	-46.20	0.20	51.50	シルラス(S1)	暗灰	中位	火山灰質砂質土。腐植物若干混入。含水比低く、硬い。	粘性土
53	-47.80	1.60	53.10	シルト (H)	暗灰	軟らかい		粘性土
54	-49.25	1.45	54.55	シルト質砂 (SH)	暗灰	中位	53.20m付近、φ40mmの露点在。	粘性土
55							露径φ3~30mm主体にφmax70mm程度が露在。砂の面角鋭。砂は細~中粒砂。非常に締まっています。	粘性土
56								粘性土
57	-52.20	2.95	57.50	砂層 (G1)	暗灰	軟らかい		粘性土
58							新第三紀吉野層群 泥岩砂岩互層。新鮮堅硬で爪でキズがつく硬さ。	軟岩
59								軟岩
60	-54.70	2.50	60.00	岩盤 (R)	暗灰			軟岩

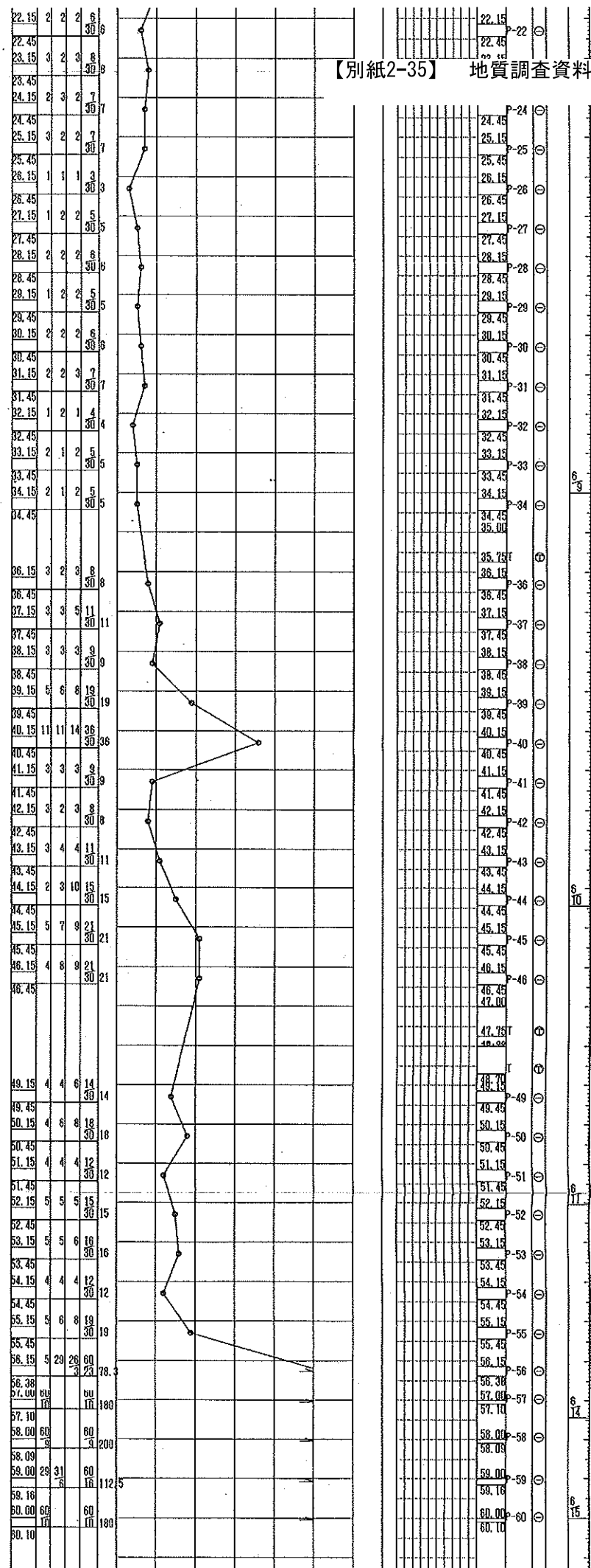


土質ボーリング柱状図 (標準貫入試験) [別紙2-34] 地質調査資料
 <宮崎北警察署庁舎建設工事に伴う地盤調査>

既存ボーリング位置 (H5年度調査) : No. 5
 発注機関 : 宮崎県
 調査機関 : 平成5年6月7日~平成5年6月15日
 孔口標高 : GH5.44m
 総掘進長 : 60.00m

深 尺 (m)	標 高 (m)	層 厚 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	土 質 区 分	色 調	相 対 密 度	相 対 稠 度	備 考	標準貫入試験					原位置試験		試料採取		掘 進 月 日	
										深 度 (m)	10cm毎の 打撃回数 / 貫入 量			N 値	深 度 (m)	試 験 名 お よ び 結 果	深 度 (m)	試 料 番 号		採 取 方 法
											0 10 20 30	1 10 20 30	2 10 20 30							
1	4.34	1.10	1.10	盛土 (8B)	黒灰				表層0.25mはアスファルトおよび碎石、以深は粘土質砂。	1.15	5	6	17	17			1.15	P-1	○	6 7 8
2									砂は粗砂。総はφ5~10mm主体でφmax×30mm。軽石混入。	1.45	4	4	11	11			1.45	P-2	○	
3								中位		2.15	4	3	11	11			2.15	P-3	○	
4								緩い		2.45	3	4	12	12			2.45	P-4	○	
5								中位		3.15	3	4	12	12			3.15	P-5	○	
6	-0.61	4.95	6.05	雑混り砂 (S-6)	褐灰				均質な細砂。	3.45	2	2	9	9			3.45	P-6	○	
7								中位	7.00~7.20m付近に腐植物が塊状に混入。貝ガラ片が部分的に混入。	4.15	2	2	9	9			4.15	P-7	○	
8								密な		4.45	8	7	18	18			4.45	P-8	○	
9										4.75	2	4	13	13			4.75	P-9	○	
10										8.15	9	11	30	30			8.15	P-10	○	
11	-6.00	5.45	11.50	細砂 (S)	暗灰			中位	10.40m付近、シルトを0.5cm幅に挟む。貝ガラ片混入。	8.45	6	5	18	18			8.45	P-11	○	
12								中位		9.15	6	7	18	18			9.15	P-12	○	
13								緩い		9.45	3	3	8	8			9.45	P-13	○	
14								中位		10.15	3	3	9	9			10.15	P-14	○	
15										10.45	2	2	5	5			10.45	P-15	○	
16								緩い	16.00m付近、シルトを5~8cm幅に挟む。	11.15	4	3	12	12			11.15	P-16	○	
17	-12.31	6.25	17.75	シルト混り砂 (S-n)	暗灰			中位		11.45	3	3	8	8			11.45	P-17	○	
18									所々、細砂が混入。貝ガラ片・腐植物混入。	12.15	3	3	6	6			12.15	P-18	○	
19								中位		12.45	2	2	5	5			12.45	P-19	○	
20	-14.56	2.25	20.00	砂質シルト (HS)	暗灰			中位	貝ガラ片・腐植物混入。	13.15	2	3	8	8			13.15	P-20	○	
21								硬い		13.45	2	2	5	5			13.45	P-21	○	
22	-16.86	2.30	22.30	砂混りシルト (HS)	暗灰			中位	21.70m付近に2~5cm幅の細砂を挟む。貝ガラ片・腐植物混入。軽石を斑点・帯状に挟む。	14.15	3	4	10	10			14.15	P-22	○	
23										14.45	3	3	9	9			14.45	P-23	○	
24										15.15	3	3	9	9			15.15	P-24	○	
25								中位		16.15	1	2	5	5			16.15	P-25	○	
26								軟らかい		16.45	1	1	3	3			16.45	P-26	○	
27										17.15	3	2	7	7			17.15	P-27	○	
28	-23.11	6.25	28.55	砂質シルト (HS)	暗灰			中位		17.45	2	2	6	6			17.45	P-28	○	
29										18.15	1	2	5	5			18.15	P-29	○	

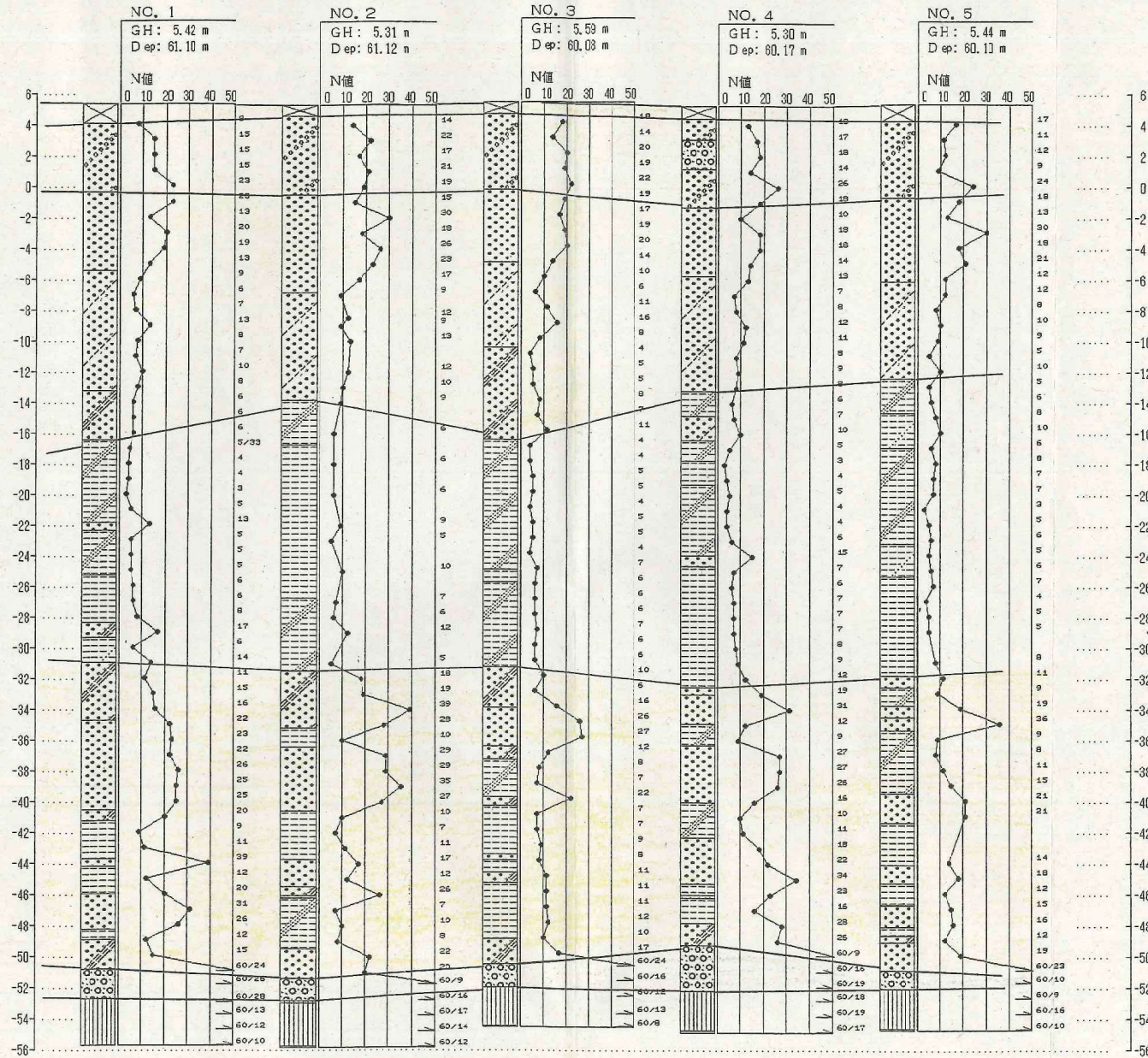
22	-16.86	2.30	22.30	砂混りシルト (H-S)	暗灰	中位	略の粗砂を挟む。 貝カラス片・腐植物混入。 軽石を斑点・帯状に挟む。
23							
24							
25						中位	
26						軟らかい	
27							
28	-23.11	6.25	28.55	砂質シルト (H-S)	暗灰	中位	
29							29.40m付近、φ10 管程度の円礫多量。
30	-25.26	2.15	30.70	砂混りシルト (H-S)	暗灰	中位	
31						中位	貝カラス片少量混入。
32						軟らかい	
33							
34							35.00~35.75m シンワール採取。
35						中位	
36							
37	-31.71	6.43	37.15	シルト (H)	暗灰	中位	
38	-32.46	0.75	37.90	細砂 (S)	暗灰	中位	
39	-33.66	1.20	39.10	砂質シルト (H-S)	暗灰	硬い	中砂を少量混入。
40	-34.41	0.75	39.85	細中砂 (S)	暗灰	中位	
41	-35.28	0.85	40.70	中砂 (S)	暗灰	密な	φ2mm大の礫混入。
42						硬い	
43						中位	42.30m付近、腐植物 混入。
44						硬い	
45	-39.36	4.10	44.80	砂質シルト (H-S)	暗灰		
46	-41.26	1.80	46.70	細砂 (S)	暗灰	中位	46.00m付近、腐植物 を少量混入。
47							47.00~47.75、 48.00~48.70m シンワール採取。 含水比低く、硬い。
48							
49	-44.81	2.75	49.45	シルト (H)	暗灰	硬い	49.30~49.40m 腐植物を帯状に挟む。 シルトをうすく挟む。
50	-45.21	1.20	50.65	細砂 (S)	暗灰	中位	
51						中位	含水比低く、硬い。 腐植物を塊状に混入。
52	-48.58	1.37	52.02	シルト (H) シラス(Si)	暗灰		火山灰質砂質土。 腐植物混入。
53	-48.81	1.40	53.45	細砂 (S)	暗灰	中位	
54	-48.56	0.55	54.00	シルト (H)	暗灰		含水比低く、硬い。
55	-49.01	0.45	54.45	シルト質砂 (H-S)	暗灰	中位	54.30m付近、シラス を帯状に挟む。
56	-50.81	1.80	56.25	細砂 (S)	暗灰	中位	55.25~55.30m 、シルト挟む。
57	-52.01	1.20	57.45	砂礫 (G)	暗灰	非常に密な	粒径φ3~30mm主体にφ max130mmを含む。 砂は細~中粒砂。非常に締 まっています。
58							新第三紀宮崎層群 泥岩砂 岩互層。 粗粒硬塊で爪でキズがつく 硬さ。
59	-54.56	2.55	60.00	岩盤 (R)	暗灰	非常に密な	
60							



全体推定地質断面図
 <宮崎北警察署庁舎建設工事に伴う地盤調査>

縮尺たて= 1/300
 縮尺よこ= 1/300

【別紙2-36】 地質調査資料



時代	地層区分	図	土質
第	(1) 崖土層	Ts	粘性土、砂質土
	(2) 上部礫質土層	種混じり砂 Ag1	砂
		細砂 Ag2	礫質土
第	(3) 上部砂質土層	細砂 As1	砂
		シルト混り砂 As2	砂質土
		シルト質砂 As3	砂質土
第	(4) 中部粘性土層	粘性土部分 Ac	粘性土
		砂質土部分 As4	砂質土
		Ac	粘性土
第	(5) 下部粘性土・砂質土互層	粘性土部分 Dc	粘性土
		砂質土部分 Dc	砂質土
第	(6) 砂礫層	Dg	礫質土
		Dg	礫質土
新第三紀	(7) 岩盤	Mai	軟岩 I